

KABSE

九州橋梁・構造工学研究会会報 1993

KYUSHU ASSOCIATION FOR
BRIDGE AND STRUCTURAL ENGINEERING

創立10周年記念 特集号



表紙説明

九州・山口のランドサットマップ

写真提供：西部地区自然災害資料センター

九州橋梁・構造工学会会報

設立10周年記念特集 目次

挨拶	渡辺 明	1
祝 辞		
設立10周年を迎えて	藤川 寛之	2
KABSEとSGST	宇佐美 勉	3
創立10周年記念座談会		
新世紀に向けて、若き技術者たちは、いま…	記念行事企画小委員会	4
九州・山口の名橋10年のあゆみ	会報編集小委員会	17
KABSEに寄せる		
KABSE草創の頃	三池 亮次	32
KABSE10周年記念に寄せて	太田 俊昭	32
KABSE発足10周年に寄せる	織戸鐵太郎	33
KABSEの裏方に徹して	藤井 利治	34
九州橋梁・構造工学会10周年を振り返って		
はじめましてKABSE様	宮地 宏吉	34
10才!おめでとう	岡田真由美	35
KABSE創立10周年に寄せて	大塚 久哲	36
	亀井 正博	36
KABSE10年のあゆみ	会報編集委員会	
I. 特別講演会		37
II. 講演会		38
III. 講習会		40
IV. 見学会		42
V. 研究分科会		43
VI. 出版物一覧		51
VII. 会報総目次		54
VIII. 土木構造・材料論文集総目次		56
会則・分科会規定		61

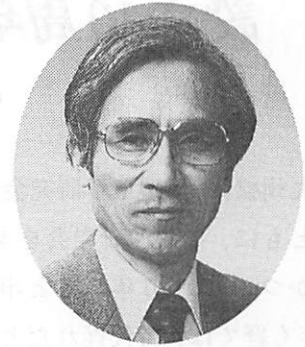
**JOURNAL OF
KYUSHU ASSOCIATION FOR BRIDGE AND STRUCTURAL ENGINEERING 1993
SPECIAL 10TH ANNIVERSARY ISSUE**

CONTENTS

FOREWORD	Akira WATANABE	1
CONGRATULATIONS		
◇ Welcoming the 10th Anniversary of KABSE	Hiroyuki FUJIKAWA	2
◇ KABSE and SGST	Tutomu USAMI	3
ANNIVERSARY SYMPOSIUM		
Now, Young Civil Engineers, Towards The New Century...	Planning Subcommittee for the 10th Anniversary Events	4
PAST 10 YEARS' HISTORY OF EXCELLENT BRIDGES IN KYUSHU AND YAMAGUCHI		
	Journal Editorial Staff	17
MESSAGES FOR KABSE		
◇ On the Foundation of KABSE	Ryoji MIIKE	32
◇ To the 10th Anniversary of KABSE	Toshiaki OHTA	32
◇ To the 10th Anniversary of KABSE	Tetsutaro ORITO	33
◇ Devoting All My Energy to being a Stagehand for KABSE	Toshiharu FUJII	34
◇ Looking Back at the Past 10 Years in KABSE	Hirokichi MIYAJI	34
◇ How Do You Do?! KABSE	Mayumi OKADA	35
◇ Congratulations! 10 Years Old	Hisanori OTSUKA	36
◇ To the 10th Anniversary of KABSE	Masahiro KAMEI	36
THE PAST 10 YEARS IN KABSE		
	Journal Editorial Staff	
I . Special Lecture Meeting		37
II . Lecture Meeting		38
III . Lecture Class		40
IV . Observation Trip		42
V . Research Subcommittee		43
VI . Publications		51
VII . All Contents for Annual Journals		54
VIII . All Contents for Journals of Structures and Materials in Civil Engineering		56
THE REGULATIONS OF KABSE		
		61

挨拶

会 長 渡 辺 明



KABSEが生まれて10年の記念すべき節目を迎えました。会員各位と共に慶びを頒ちたいと存じます。

本会は主として土木分野の橋梁・構造・材料関係の技術者が、産官学相和し相携えて専門的知識・経験を交流し、新技術の開発・普及を図り、土木工学・事業の発展に寄与することを目的として、昭和58年11月に発足したのでありますが、いまや会員数が個人411名、法人135社の規模となっております。

これまでに実施された講演会・講習会・見学会等はそれぞれ19・15・8件におよび、組織された研究分科会は32にもものほり、時宜を得たテーマの下で活発な研究が展開されてきています。また、既に論文集（8号）・会報（10号）も刊行して、活動の成果を世におくり、会員相互の親睦にも寄与しております。

さて、この10年間に青函トンネル・瀬戸大橋等が開通し、九州でも呼子大橋・別府明礬橋等が完成しました。また、明石海峡大橋・関西空港・東京湾横断道路等の大規模プロジェクトも次々に発進しましたし、国際化の流れの中で、平成2年6月の日米構造協議は、430兆円の公共投資を（1991－2000）年の10年間に実施すべき国際公約として位置づけました。更に、文明開化がもたらした環境破壊も確実に進行しており、地球環境の再生・循環型社会システム構築のため、地球の外科医としての土木屋の出番も亦愈々拡大の気運であります。

バブルがはじけて各界低迷する中、土木に強気な発言が多いのは、以上の拡大基調を背景にしていることと思われませんが、建設業の人材不足は依然深刻であります。

建設業が真に活性化され、その中で生きる人々に誇りと希望を持たせるためには、社名のモダン化・制服のファッションナブル化・会社案内の一新だけでは到底不可能で、労働集約型で、単にものを重量や容積で売っている現況から脱却して、機械化・情報化施工型で、かつソフトも売る体質に内部変革される必要があります。そのためにはVE・CM制度等も射程に入れた入札・契約方式の近代化が肝要で、そして何よりも、政治との関わりにメスを入れるべきではないでしょうか。

本会が今後とも所期の目的に向って邁進し、常に時代の先見先導役も果たし得ることを念願して、開会10周年のご挨拶とさせていただきます。

（九州工業大学教授）

設立10周年を迎えて

土木学会西部支部長 藤川 寛之

九州橋梁・構造工学研究会が設立10周年を迎えられたことを心からお祝いを申し上げますとともに、この間研究会を支えてこられた会員の皆様の熱意と努力に深く敬意を表します。

かつては、10年一昔と申しましたが、昨今の社会の動きは目まぐるしく、数年或いは1年も経てば、時代遅れだといわれるような時代となりました。しかし、私たちの行なっている社会資本の整備は、50年、或いは100年経った後でさえ時代遅れにならないことを目指して行なって行かなければならないという意味で、先見性や合理性を持つものでなければなりません。そして、そのような社会資本を整備して行くには、深い洞察力と社会の大きなトレンドを正しく捕らえる目が必要であり、そのような能力を涵養するためには、日々の研鑽と努力が必要欠くべからざるものであります。

また、昨今は地球環境の問題が議論されるようになりました。かつて、地球は大きくてびくともしないもの、征服すべきものといった捕らえ方がなされておりましたが、次第に研究が進み、事実が明らかになるにつれ、地球はデリケートで絶妙のバランスの上に成り立っているものであることが分かってきております。私たち土木技術者は、私たちが享受しているすばらしい贈物である地球の環境を台無しにすることなく後世へと伝えてゆく義務があり、そのためにも、さらなる技術の開発並びに研究を続けなければなりません。

一方で、我が国の橋梁技術の状況に目を向けますと、まず、世界最長の架橋である明石海峡大橋の完成も間近に見えてまいりました。建設省では、明石海峡大橋に続く21世紀のビッグ・プロジェクトの技術的な課題を整理する「海峡横断プロジェクト技術検討委員会」を設置し、6つの海峡横断ルートを想定して今後の研究の進むべき方向を検討しているところでございます。九州ブロックにおきましては関門海峡、豊予海峡、早岐瀬戸・長島海峡3ルートが海峡横断プロジェクトにノミネートされているところであり、今後、九州は超長大橋建設のメッカとなる可能性があり、そのような時代に備えて九州における独自の技術開発が必要と思われまます。

貴研究会におかれましては、このような時代を見越して、橋梁・構造の技術の洗練にとどまらず、さらに視野を広く土木技術全般や他分野の技術並びに社会構造の動向にも目を向けた幅広い活動により、会員の諸氏の研鑽の場を提供し続けているという点で高く評価されるものであり、九州のみならず、我が国の橋梁・構造工学をリードする場として、引き続き活発なご活動を期待しております。

(建設省九州地方建設局長)

KABSE と SGST

名古屋大学工学部教授 宇佐美 勉

KABSEは本年度で10周年をお迎えとのこと、心よりお祝い申し上げます。

私の手元に、KABSEから送られてきました2冊のレポートがあります。“「鋼構造物設計指針」に基づいた設計計算例とその考察”と“限界状態設計法による鋼桁橋の試設計とその考察”です。いずれも、労作です。単なる計算例・試設計の提供にとどまらず、問題点の指摘、検討過程などが詳細に記載されており、われわれ研究者にとっても参考になるところが多いレポートです。私が現在取り組んでいる研究に直接関係があるという意味で、前者がとくに役に立っております。このレポートは、我々の研究室に配属された学生にまず最初に勉強させるテキストの1つになっております。

最近の構造工学の最先端の論文は非常に難解なものが多く、我々研究者でも少し専門を外れると理解が困難になる論文が多くなってきております。ましてや、日常の業務に追われている実務家にとっては、役に立ちそうだと分かっても、原論文を読み、理解する時間がなかなか見つけられないのが現状だと思います。KABSEの最も大きな役割の1つは、難解な内容を分かりやすく咀嚼して、実務家、学生、(専門外の)研究者に最新の情報を提供することであると思います。上記の2つの出版物や研究分科会の内容を見れば、KABSEはその役割を立派に果たされており、国内で、最も活発に活動されている構造工学関係の研究会であることはだれしも認めるところであろうと思います。

さて、標題のSGSTについて少し触れさせていただきます。SGSTは東海構造研究グループのニックネームで、私が現在3代目の代表者を務めております。設立目的は、この地域の実務家、研究者に情報交換の場を提供することであり、KABSEと同じような目的を持って作られた研究会です。SGSTは、設立は1978年とKABSEより多少早いのですが、残念ながら、会員数、年間予算、活動状況とも、KABSEにはるかに及びません。SGSTは現在年6回程度の研究会と隔年で土木学会中部支部の技術講座の協賛と応募論文による拡大研究講演会を交互に行っているのみです。我々もSGSTの活動範囲を広げるべく色々模索中ですが、官・民・学、全ての人に満足していただける研究会にすることは、なかなか難しいです。しかし、KABSEはそこら当たりをうまくやっておられるようで、会員の方から色々アドバイスを頂ければと思っております。また、近い将来、KABSE、SGSTのジョイントで、研究会でも企画ができればと考えております。

末筆となりましたが、KABSEの益々の発展と、会員の皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

新世紀に向けて、 若き土木技術者たちは、いま…

KABSE 創立 10 周年記念行事企画小委員会

創世期の10年が過ぎたいま、KABSEは新たな“繁栄の10年”に向かい、第一歩を踏み出さなければならない。しかるに、この10年は、世紀末から新世紀へと時代が変わる時であり、世界情勢もその間に大きく転換しようとしている。産業革命以来、急速に成長し続けてきた近代文明は、いまや、地球という生体の喉元に、カタストロフィーの刃を突きつけている感があり、全世界で、地球規模の環境保護が叫ばれている。その様な状況下で、世界経済の先頭をひた走るわが国は、無条件の成長から、Sustainable Development (持続可能な発展) へのペースダウンを迫られている。この難しい転換期の時代に、九州の若き土木技術者達は、何を考え、何を夢みて進もうとしているのであろうか。

KABSEでは10周年を記念して、若き土木技術者の座談会を開催することとした。そして、九州各地の産・官・学から9名の若者にご参集頂き、将来について大いに語り合ってもらった。出席者は下記の通りである。

本文をお読み頂いたら、九州の若者が、それぞれの立場で、いろいろな疑問や問題に真正面から立ち向かい、いかに素直に、真面目に、人間性重視の視点から解決策を見出だそうとしているか、お分かり頂けると思う。さわやかな議論をお楽しみ頂ければ幸いである。

なお、司会は九州工業大学久保喜延助教授、九州大学牧角龍憲助教授にお願いした。また、小委員会から出光 隆幹事 (九州工業大学) も参加した。

◇出席者 (順不同)

辛島 聖子：宮崎県産業開発青年隊

鮫島 信行：鹿児島工業高等専門学校
土木工学科 5年

松野 進：長崎大学大学院工学研究科
修士1年

河原田寿紀：九州電力株式会社総合研究所
土木研究室

本田 淳子：株式会社マエダ九州支店
技術部

財津 公明：株式会社佐藤組土木事業本部

上月 裕：熊本県芦北土木事務所

淵上 康英：福岡市土木局道路建設部

秦 裕明：オリエンタル建設株式会社
福岡支店

◇司 会 久保 喜延 (九州工業大学)
牧角 龍憲 (九州大学)
出光 隆 (創立10周年記念行事
企画小委員会)

◇日 時 平成5年1月23日(土)
12～16時30分

◇場 所 九州大学工学部土木 (現建設
都市) 工学科会議室

● 土木のイメージ ●

久保 まず、最初に、自己紹介をしてもらって、どういうきっかけで土木に進まれたのか、どういうイメージを土木に対して持っておられるのかを、ざっくばらんに、ありのままお話ください。現在の職務などもお願い致します。

上月 熊本県庁の上月です。現在は、熊本県芦北土木事務所にいます。おもな仕事としては、河川改修や、海岸護岸などをやっております。

何故、最初に土木を選んだかという事なんです。子供の頃から、漠然となにか大きなものを造ってみたいなと思っていました。その夢を実現できるのは土木じゃないかなと思ひまして、土木に入りました。

河原田 九電の河原田です。私は、現在研究所におりまして、土木関係の研究のほか、各現場が抱えているいろいろな問題に対して相談にのる、少しコンサル的な仕事もやっております。

土木に入った動機ですが、私は、もともと親が土木屋で、そういう事もあって小さい頃から土木が好きで、ちょっと目だたないけど男気があってカッコいい仕事なのだと思っていました。大切な社会的基盤を造っているのに縁の下の力持ちで、表にはあまり出ない、それでいて地図に残る仕事をやっただぞと自負できる。そういう感じが好きで土木を選びました。

鮫島 鹿児島高専5年の鮫島です。私が土木に入った1番の理由は、家の近くに高専にいらっしゃる先輩がいたんで、僕もその人を見習って高専にいきたくてと思ったんですが、たまたまその先輩が土木にいて、母も、土木の方だと、公務員になれるからいいんじゃないかといったので土木に入りました。

久保 そのとき、描かれた土木のイメージは？

鮫島 その時ですか？ その時はやっぱり土木は、土と木だなあと思いました。(笑) 僕はどっちかというと室内でいろいろするより外でやる仕事の方が向

いているんじゃないか、まあコンピューターをいじるよりは土をいじている方が自分に合うと思ひました。

本田 株式会社マエダの本田です。入社して、最初の2年間は道路設計をしていましたが、現在は、橋梁設計をしています。それも下部工が主です。



本田 淳子 氏

なぜ土木を選んだかという理由ですが、私は、佐賀大学を出たんですが、佐賀大学では、建設工学科と土木工学科がわかれているので、建設ならば少し大きいビルなどを造るのだと思ったんです。ところが、入ってみるとうちの大学は建設、土木と分かれています、どちらも土木ですよと言われました。

久保 そのときはショックだったでしょう。

本田 はい。一緒に入学した私も含めた女性5人中4人は建築と思って入ってきましたから。けれども、土木も大きい仕事ができるなと思ひ直して4年間なんとか頑張りました。そして、就職するときは橋梁設計のできるコンサルタントを選びました。

久保 会社に入ったときの土木のイメージはどうだったですか？

本田 はじめは女の人をする仕事ではないんじゃないかと思ひました。今でも、現場は男性がいいのではと思ひます。また、女性の感性が必要だといわれますが、ある人と無い人の個人差があるので、女性を強調されると困るときがあります。最初はやめようかと思ったときもありましたが、今はだんだん慣れてきて仕事も面白くなってきています。

秦 オリエンタル建設の秦です。仕事の方は主に橋梁設計をしております。なぜ土木に入ったかという、中学の時にビルとか建築物を造りたいと思って、それで工業高校に入ろうかなあと思っていたんですが、先生から高専の方を受けてみなかという事で、その時、大分高専には建築がなかったものですから、1番近いのは土木だということで、土木に入りました。その中でいろいろとやったら、橋梁の構造計算が面白くて、興味を持ちました。それで、会社にはいるときも、そういう事が出来る所だという事で、今の会社に入りました。

辛島 まず、学校を紹介したいんですが…。私の学校は宮崎県産業開発青年隊と言います。おもに高校を卒業した人が来るんですが、歴史は古くて、創立41年目なんです。これまで40年間はずっと男性ばかりが、建設関係のことを学んでいました。41年目に初めて、私も含めて、8人の女性が“入隊”という言葉を使うんですが、入隊して、もう少しで1年経つんです。学校は全寮制で、朝は5時30分に起きて、自衛隊じゃないんですが、点呼みたいなのがあって、そのあと走って、それから、現場とか男子と一緒に、夜は7時から9時30分まで授業があって、それから10時頃に寮に帰るとい生活が、毎日続いています。男性にもきついような所に、女性が初めて今年採用されたということで、結構話題になってテレビに出たりしました。

私は、高校を卒業してから看護学校に3年間行っ



辛島 聖子 氏

て、正看の免許をとって、1年間看護婦をやってから、この学校に入ったという変な経歴を持っているんです。女性がこれから働くには資格が必要だと思って、看護婦の免許をとりに行ってとりあえず免許がとれたので、1度安心したんですが、それが福岡の病院だったので、地元に戻って働きたいなあと考えて、今の学校に入ったんです。

土木を選択した理由ですが、実家が小さいながらも建設業をやっております、私の母親は1級施工技師を、父と結婚してから、独学で勉強して取得し、自分ちの現場監督もばんばんやって、それで小さい頃から土木という言葉には特に違和感も感じなくて…。長くなりましたね。(笑)

久保 時間は、たっぷりありますからいいですよ。

辛島 実家の会社は家族経営ですが、母からも、うちの後はつがなくていいよ、大変だからという感じで言われてたんです。看護婦をやめて帰って来るときに、こういう学校があるんだけどどうかと言われて、ああ、やっぱり継いで欲しいんだと思ったんですが、土木は大変なところだし、どうしようかと考えました。そのとき、私に話をしてくれた人が、土木の仕事を選ぶというより、県が学校に女性の第1期生をつくるということだから、そこに入ってやっ行くのは、女性としての道を切り開いて行くことになるのだから、そういう点でやりがいがあるんじゃないかという感じで薦められて、その言葉に引かれて入学しました。一応1年間で卒業するんですけど、就職は市役所の土木技術者として、内定しています。

松野 長崎大学大学院1年生の松野です。広島の高専から長崎大学に編入学してきて大学院に進みました。私は中学を卒業するときには、土木とはどういう仕事をするのかまだ分からなかったんです。例えば、電気とか機械だったら技術家庭科で予備知識があってそういう事をするんじゃないかと分かるのですが、土木はその段階では全然推測もできません

でした。ですから土木は偶然にも入りやすかったんで入りました。実際に土木の勉強をしてみますと面白くなってきました。高専の時の卒論は、衛生環境をやらせてもらって、大学に入って4年生の卒論では、ちょうど長崎の雲仙の噴火がありその災害に関する研究をやらせてもらいました。現在大学院では、構造関係のケーブルの振動について、研究をしているんですが、いろんな面から土木について勉強して、いろいろと興味が広まってきました。

財津 大分のゼネコンの佐藤組におります、財津です。現在の業務としては、現場から依頼される、設計変更関係の設計部門、社内の技術研修関係の仕事、あと新技術、新工法の開発関係のまとめなどの業務をおもにやっております。

土木を何故、選んだかといいますと、母が建設会社に勤めておりまして、田舎の小さな建設会社なんですが、その母の仕事場に遊びにいき、見てるうちにこういう仕事をやってみようかと思いはじめました。中学を卒業するとき、将来は土木関係に進みたいといったら、先生が土木にいくんだったら大分高専を受けてみないかという事で、高専にいきました。その後、九州工業大学に編入学し、卒業後、いまの会社に入りました。

淵上 福岡市役所の淵上です。いま道路建設二課という場所におりまして、そこで主にCAB（Cable box）事業と言って、電線類を地中化する仕事に携わっています。

土木に入った理由ですが、私は小さい頃から、事務屋などではなく、そこを通るたびに、ここは俺がやったんだと言えるような仕事がいいと思っていました。そんな理由から土木を選んで、この世界に入ったのですが、今はこの仕事を選んで良かったと思っています。

● 土木に託す夢 ●

久保 一応、自己紹介が終わりましたので、次に、

土木に託す夢について、どなたからでも結構ですので、お話し下さい。

鮫島 いろんな分野でそれぞれ特徴があると思うんですが、特に、土木というのは土木特有のものを持っていると思います。土木は、使われる側だったら土木を勉強していなくてもできると思うんですが、監督や管理する方になるとちゃんと勉強した人じゃないと出来ないんじゃないかと思うんですよ。



鮫島 信行 氏

僕の夢は、将来社長になりたいですね。というのは鹿児島は、お金があまりないんですよ。どこの会社も、何をやるにしても東京とかの真似をするというか、従うというか、とにかく真似をして造るんだけど、規模がかなり小さいですよ。何かを造るにしても大きなものが造れない。だから僕は、夢ですけど自分で建設会社をつくり、鹿児島に本社をおいて日本全国にチェーン店をつくりたいです。自分の代だけじゃ無理だから、誰かにあとを継いでもらって全国を制覇したい。まあ何にしても、鹿児島のために大きな仕事をしたいです。僕のとなりのクラスの友達も、種子島の出身で、種子島まで橋を架けるぞなどという話もしています。

久保 本田さんは、事前にとりましたアンケートで環境の事を書かれていますが、どうですか。

本田 最近、景観設計という観点から街作り計画をするとき、カラー二次製品や塗装などで化粧して、表面的にいかにも美しく見えるかを重視した計画が多いような気がします。私は、その反対で、土や木の

ような自然のもので整備すると、出来上がったときは表面的にはあまり変化はないが、時間が経てば経つほど味が出て来る、そんな計画ができたらなあと思います。また、河川の水質を良くするにはもっと近自然的な保護手段を考えられないかとも思います。

上月 関連する話ですが、スイスの方で近自然工法というのがあります。例えば、いままでのように川岸をブロック積みで張ってしまうと、魚もその他の微生物も棲みにくくなります。そんなことでいいのか、河川改修は人命を守るだけでは良くないんじゃないかと言うことで、もう何年前から、ブロック積みの間に、魚や微生物が入れるようなスペースを作るなどの方法で、改修工事が行われています。最近、それに加えて、施工しているのに出来るだけしていないような姿に戻してやって、自然のままに見えるような環境保護重視の工事も試みられています。本当に微生物から、全部のものが生きていけるようなものを作って、人間と共存していこうじゃないかと言う工法なんです。スイスのものを、土木に対する住民の理解度が低い日本に、そのまま当てはめようとしても、なかなか無理があります。建設省サイドでも、いろいろやっておられると思うんですが、例えば、KABSEでも、構造系のことばかりでなく、近自然工法なども、もっと外部の人にアピールしてもらうことが必要だと思います。やはり、土木では前例がないと次のステップに進めませんから、意識を高める外部団体を作って、盛り上げる事が大変重要だと思います。

出光 最近、建設関係の雑誌に載っていたのですが、ある町の町長さんが〈ゆとりのある道路〉ということで大学出の土木技術者に計画させたところ、どうしても道路構造令が染み着いてしまっているものだから、余裕のある道路ができなかった。(笑)そこで、一般の町民も参加してもらってみんなで計画し、造ったところ両側に花壇を持つゆったりとした

町道ができ上がったという事です。その上、みんなで造ったという意識がありますから、花壇は自分達で維持管理してくれる。空かんなどのゴミも無くなりまさに一石数鳥だそうです。住民の声なき声といえますか、住民運動でいつも出てくる人の意見ではなくて、住民個々の土木に対する関心を高め、理解してもらうことが大切なんじゃないかな。

久保 法律は、法律として守らなければいけないのですが、それを越えてできることもありますから、住民の本当に欲しいものを造らなければならない。今は行政サイドが、作ってやっているんだという意識が強すぎるという声もあるようですね。

財津 私もその記事を先日読んで、非常によかったなあと思っていたんですが、道路構造令にあまりこだわらずに造るとするのは賛成です。道路構造令を見ていると、完全に車が主体だなという感じがしますよね。例えば、いまは車の乗り込みをするときは歩道を下げてしまっていますので、体の不自由な方にとっては、歩道に段がついて歩きづらいと思うんです。逆に、体の不自由な方のために、歩道は段差がないようにして、車の方が、段のついているところを動くようにした方がいいんじゃないかと、よく街を歩く時に思うんですよ。

こういう機会というか、先ほど、上月さんが言われたようないろんな会があるんですから、道路構造令を変えようという検討もそんな所で議論されてもいいんじゃないかという気がします。そういう場を通じて、法律は何が何でも守らなければならないという考え方は、少しおかしいんだということを教えて欲しい。それを、業者サイドからいうのは、少し言いにくいんですが…。(笑)

淵上 車が道路を走っていて、渋滞などが起こるのは、車が平面的にしか動かないからで、それこそ夢のような話ですが、もし車が立体的に動けば、交通問題は殆ど解決する。そんな時が来る日も遠いことではないかも知れませんね。



淵上 康英 氏

それから、大切なことは、次世代を担う子供達が土木に対して夢をもてるように、土木界のイメージアップを図ることだと思います。また、近い将来、高齢化社会もきますが、土木屋は、年寄りのはのびり、子供達は伸び伸び、そういう心豊かな社会を目指しているんで、土木という字は土と木だけでも、取り扱っているのは土と木だけの仕事ではないんだと、そんな土木の真の姿をどのようにPRしていくかが問題になって来ると思うんですよ。

● 土木のPR ●

久保 土木は、やはりもっと宣伝をしないとイケませんね。土木学会だとか、KABSEの中では土木の日（11月18日）に行事をやっていますが、他の機関、建設会社などはその辺どうお考えですか？

財津 我々ゼネコンサイドからいうと、設計をゼネコンがやるというのは、ほとんどありませんので、役所からコンサルタントに設計の発注がありまして、それから我々の所に施工の仕事が来るというのがほとんど9割以上です。そうなるやはり、例えばコマーシャル向きな高速道路などを考えてみますと、企業の意志が反映されている部分が少ない場合が多いものですから、土木のコマーシャルにつながるのかなと思います。

ただ設計の段階で、ものすごく疑問に思う事がよくあるんですが、例えば、林道などの設計された図面を見ると、片側を切って片一方は盛るんだとか、片

一方切りました、こっちは擁壁を造りますとか、ほとんどが画一化されてしまっています。そういう画一的なものばかりじゃなくて、最近はやっているジオテキスタイルの変形だとか、そういうのを使ってやると工費的にも、あまり変わりませんし、山もあまり切らなくてよいと思います。やっぱり見て山をほこっと削るのは気持ちのいいものではありませんから、そういう事も、発注段階でもう少し考慮してみたらどうなのかなと思います。そうすれば、これだけ自然を守りながら施工していますよという、コマーシャルも出来るんじゃないかと思います。

久保 自然を守らなくてはいけないと言いながら、物を造らなければならない。そこをどうバランスさせるかが難しいのですね。

財津 先程から何回も言われていますが、画一化された物の考えばかりしていると、いつまで経ってもよくなれないと言う気がします。ただ、会計検査があるので大変だろうなどは思いますが。（笑）

久保 画一化すると発注者側は楽にできる。しかしながら、逆に言うと、そこを越える所に技術の発展がある。技術者の技量が問われるところですね。

● 景観設計・街づくり ●

秦 橋梁関係では、昔から構造計算重視でやっていますが、景観を主体とした設計もあってもいいと思います。景観を考えるとと言っても、予算によりまずけど、安いお金で景観を考えると、構造物は普通の構造物で、周りを飾るだけで、見た目だけということになり、考えものです。車道じゃ、なかなか考えにくいと思うんですけど、歩道ですと、みんなが集まってきて遊べるというようなアビニヨンの橋的な要素のある楽しい橋が多く出来ればいいと思うんです。その時に問題となってくるのは、最終的に構造系が複雑になることです。それで、構造計算を簡易化すると言うか、どうしても計算となると、目で見えない部分が多いですから、例えば、パソコンの

画面に出して、それを見ながら、桁の高さだとか、その辺を比較的簡単に、確実に決められるようにすれば、景観を重視して曲線要素も積極的に取り入れることができるのではないのでしょうか。橋梁は、我々メーカーとしては、まっすぐな方がいいんですが、最初からアクセントをもたせて、橋梁を曲げて道路計画を考えると、逆に、おもしろくなるんじゃないかと思います。



秦 裕明 氏

出光 景観設計について、自分だったらこうしたいというのがありますか。

秦 現在、どこでも会社規模で景観を考慮した設計が出来ているかという疑問があります。現実的なことを考えると、最初は、まず、個人的なレベルで技術力を身につけていくのがよいと思います。いま、パソコンとかが安くなってきていますので、それを購入して、まず使ってみて、また安くていいCGソフトも出てきますので、それを利用して景観を考慮した設計が出来るようになればいいなと思います。現状は、頭で考えた事を書いて清書し、次の段階で考えてまた清書というようなやり方で行ってるんですけど、それを1つ飛び越えて、最初からパソコンが使えれば、各段階でいくつもの案を簡単に繰り返し検討できますから、金額の面でもあまりかからず、良い設計ができる時代がくると思います。

久保 いま、住民参加の景観造りということは普通に行われていますか。

秦 いや、まだそこまでは行ってないようです。

出光 先ほどの町長さんの話で、一番印象に残った言葉を、紹介するのを忘れていました。「土木技術や法律が街を造るわけではない。人が造るものだ。」という言葉です。町長さんの基本姿勢ですね。

秦 そういう面が重要視されて、構造物を住民に見せて意見を求めるときに、平面図や断面図等を見ても理解されないの、パソコンを使って立体的な図を示して、目で見て判断できるようなシステムにしてやるといいんじゃないかと思います。

久保 街づくりについては皆さんどう思われますか。町全体としての調和とか、最近では自然災害時の配慮なども問題となっていますが。

松野 雲仙の場合、火砕流に対する警戒地域を決めて立ち入り禁止としていますが、無断で入る人があり、警察、消防等と住民との情報伝達を速やかにできるようなシステムにしておく必要があると思いました。

それとは別に、主婦の目からみた街づくりという新聞記事を読んだのですが、年寄りに対する配慮なども行き届いていて、例えば、1cmの段差でも年寄りにはつまづいてしまうから歩道に段差をなくして欲しいなど、また、のり面にはコンクリートをやめて芝生を敷き、景観を崩さないで崖崩れを防ぐことができないかなど、先ほどから出ている意見が主婦の意見としても多く上がっていました。

久保 電力関係ではその点どうですか。

河原田 電力の立場からは環境問題が最も大切で、例えば火力発電所を造るとき、環境アセスメントを行うのですが、その時、なるべく住民の生の意見を取り入れようと努力しております。

また、最近ある発電所を造るとき、景観を考慮して、付けやき刃かも知れませんが自然石に見えるようにと、石積み形の型枠を使ってコンクリート擁壁を造りました。そういうものは結構お金がかかりますから、全部が全部に採用しているというわけではありません。

久保 例えば、環境問題とかを肌で感じられることがありますか。宮崎は自然に囲まれています。

辛島 他の所に比べると、宮崎は自然が多くていいなど感じるんですけど、今の私達の年代は、やはり刺激が欲しいというか、自然で育っているから、かえって都会にあこがれるという意識があって、そういうものが宮崎にもできたらいいなと思います。最近、オーシャンドームとかいう大リゾート施設が宮崎市に造られています。そこは海岸の砂地だから、松林があります。それを切り開いて開発が行われています。やはり、自然は大切だなと思う反面、大きな物ができるとやっぱりうれしいです。余程勉強した人じゃないと、自然は大切だとか、いろいろな物を造るときには自然を壊してしまうという事がわからないと思います。私も土木の知識が多いわけではないから、そんな感じしか分からないんです。だけど、先程の上月さんの話の中ででてきた近自然工法などの話を聞くと、私もそんな大事なことを勉強する場が欲しいなと思います。

● 橋は土木のシンボル ●

牧角 土木の夢を語ってもらったつもりが、少し、現実側に片寄ってきました。もう一度、話題を戻して、これから10年、20年、100年後のいろんな土木の夢、多面的な抱負をお話し下さい。

久保 一番、土木に大切なのは何なのか、バックに何を据えていくのが大切なんでしょうね。

松野 長崎県民として見る夢は、やっぱり三県架橋です。現在、島原半島だったら、一本しか主要な道路が無いので、自動車専用道路をつくり、長崎～熊本～鹿児島まで延ばせば、それに沿った地域の活性化にもつながりますし。

牧角 土木に入ってきたからには、そういうものを自分で造ってみたいなあとありますか。

松野 もしチャンスがあれば、造ってみたいなと思います。そのとき架ける橋は明石海峡大橋より長い、

世界で一番長い橋になるんですが、いま、長大橋の技術は大きく進んでいますし、もっと勉強すれば、自分でもやれるんじゃないかという気がしています。

牧角 本田さん、女性として長大橋の計画はどうですか。

本田 造りたいと思うのと、その反面そんな大それたことをと思うのと…。完成した一瞬はヤッタ！という気になるとは思いますが、その後は不安で不安でしかたなくなるでしょうね。(笑)

上月 青函トンネルと本四連絡橋を通過して感じるのは、橋の方が断然アピールするということです。青函トンネルは、海底に入っているときはすごいなあとと思うけど、外に出たらあっとすぐ次の駅まで行ってしまう。橋の方が写真にもとれるし、やっぱり橋梁の魅力は土木のシンボルになると思います。

● アジアと九州 ●

上月 九州の土木の夢といったときに、僕の個人的な夢と今後こうあってほしいという夢の二つがあります。まず、個人としては、構造令やら会計検査にとらわれずもっと自由に大きな構造物を造ってみたい。そのためには皆んなで話合い、声をあげて行ってモデル地域みたいなものを造り、九州でもこんなものを造ったんだぞという先駆けになるものが出来たらいいなと思います。

次に、今後土木がこうあってほしいという夢とし



上月 裕 氏

ては、九州というのは地理的に一番アジアに近く、当然アジアの玄関としての位置づけが九州にあるから、韓国との海底トンネル構想の実現や港湾施設の充実をやったらいんじゃないか、港湾施設を充実させて湾岸道路を通してアジアの船を九州に全部いれて東京にもちこんでいたおいしいところをみんなもらう。アジアのおいしいところは何かという、いま日本の方が全てアジアの上を行っているように思っていますが、アジアにも、例えば万里の長城を成し遂げた技術や漢方のような近自然的な技術がたくさん残っているのではないかと、それを全部九州でキャッチしてKABSEを通して全国、全世界に発信していく、それを九州の土木の特徴の一つとして考えてみたらどうでしょうか。また逆に、日本では関門トンネルにしる関門橋にしてもまず九州でやってみて、それからその技術が四国、北海道というように全国に発展していったわけだから、それを更にアジアにも向けて進展させていけばいいのではとも思います。

久保 運輸体系を考えると九州出発点というのはどうですか。

上月 私が思うのは、アジアから東京湾に船で行き荷揚げすると、九州で荷揚げして湾岸道路を整備して東京はじめ全国にいろいろな資材をおくのとどっちが時間的に早くて有効だろうか。東京のパンクした状態より、九州の方が湾岸道路をつくれる場所がいっぱいあるからその辺から活性化していけば、結果的には良くなるのではないかと思います。

出光 数年前、ASEANから何人かの技術者が日本にやってきて、東京で数カ月現場研修を受けましたが、国の事情とあまりにかけ離れているため、ほとんど役に立たなかったが、その後1週間立ち寄った鹿児島で学んだ事は非常に役に立ったという話があります。アジアと九州は文化的に近いのでしょうか。上月さんの話のように、向こうにも私達の習う事がたくさんあると思いますね。

● 交通事情 ●

牧角 土木事業といっても、東京みたいになり成熟した人口の多いところで、あくまでも基盤整備として行うものもあるし、本来の土木というのは生活を良くしようという事ですが、九州にはまだまだそういうところがいっぱい残っている。例えば宮崎でもフェリーが寄港するようになって宮崎市民が元気づいたところがある。

辛島 大きな施設が出来ると宮崎もすてたもんじゃないと思う。宮崎は海を通ったら東京が一番近いですから。

久保 大分はどうですか。

財津 最近、会社で話題になったんですが、気がついたら大分市からは、どこの県庁所在地にも2時間くらいかかる。(笑) 飛行場にしても大分から東京まで飛行機で1時間半しかかからないのが、飛行場から大分市内まで1時間近くかかってしまう。大分のことを考えると1時間とはいわなくても、せめて1時間半ぐらいでいرونなところとつながればと思う。福岡にはもうすぐ高速道路が全線通じるし、東九州自動車道の話も活発になっていますから、もうすぐそんな時代がくると思いますけど。

淵上 九州には新幹線がないので、いっそ、リニアモーターカーで九州一周できれば活性化につながると思いますけど…。

牧角 そのときは速すぎて、大分はまだ通過駅になる。(笑)

財津 いや、是非とも止めて下さい。(笑)

● 電力事情 ●

財津 ずっと先の話ですけど、石油がいつまでであるのかという問題がありますので、例えばイギリスかどこかで、高速道路の車の走行による風を利用して発電するという話を聞きましたが、そんな電気が高速道路にずっと通じていて、車が走れるようにできれば、全国つづうらうらバッテリーの補給無しにど

こでも行けていいなと思う。いつまでもガソリン車が走るようでは困ります。

河原田 確かに石油だけに頼ってはいけない、電気も併用してモータリゼーションを推進していかないと、将来的にはおかしくなると思います。しかし、実際には電気も無限に供給できるわけではありませんから、水素等の代替エネルギーなど多面的にいろいろ考えないといけません、電気抜きでは明るくならないのは確かです。(笑)

財津 発電方法として核融合などいろいろあるようですが、代替的な方法は何か考えられていますか。

河原田 近い将来ですと燃料電池のほか、九州は特に火山地帯ですから高温岩体発電いわゆる地熱発電が代替として考えられていますけど、まだ開発途上の域を出ていないようです。だけど、それも使って行くことを考えておかなければならないと思います。新しく発電所を造ろうと思っても、環境問題等を含めて解決すべき問題が多く、かなり長期間かかりますから…。風力発電や太陽光発電などもあります、エネルギー密度が低く、産業レベルでも民間レベルでも一部を除いてなじみにくいというのが現状のようです。



河原田寿紀 氏

● リサイクル建設材料 ●

牧角 エネルギー問題から建設材料の方に話題を変えようと思います。いまは建設物をおもにスチールとコンクリートだけで造っていますよね。これをば

っと変えてこんな材料だったらというものを考えた事はないですか。

河原田 普通は材料を使って建物をつくるだけしか考えませんが、いつかは建て替えるし、道路だったら改修する。その壊したものを2次的にまた使うとか、そういう再生材料の利用を考えていかなければいけないと思います。資源問題を考えて、ものを捨てないいわゆる省資源運動というか、2次的にもう1回使い直せるような素材がいま一番必要だと思います。

本田 最近、耐力的な問題よりむしろ機能的な限界から鋼トラス橋などの架け替え、解体工事が多くなっています。そのとき、各部材はまだ十分使えますから、一本でも多くリサイクルできないかと考える事があります。

上月 熊本では、長六橋を住民の声を高めて行くという方法で残すことに成功しました。まだ新しい保存場所は決っていませんが…。古い橋を残すとき、明治村等に移す方法などがあるようですが、やはりその地方にマッチしたシンボルとして、使えるような形で残すことが大切だと思います。

松野 コンクリートに関して考えますと、最近では都市では緑が減って、コンクリート構造物がふえて、夏にはheat island現象などが起きて都市型気候とかがあるそうですが、そういった問題を解決するためにコンクリートに熱を吸収させるような新素材があったらいいなと思います。その吸収した熱を何かに使えばエネルギーの有効利用にもなると思います。

出光 実は私も材料屋ですが、いままで強度や機能的な面ばかりを重視し過ぎてきたと反省しています。最近、景観材料という言葉がよく聞かれますが、そこで重要視されているのは、先ほど本田さんが言われたように、庭石や燈籠のように、材料は時がたつにつれて味が出てこなければならぬということです。いま言われたような意見も含めて、建設材料も多面的に技術開発することが必要ですね。

● 今後の土木教育 ●

牧角 さて、今後の土木教育はどうあるべきかを語ってほしいのですが…。今日の司会は先生ばかりですが、遠慮なくずばりとお願ひします。(笑)

財津 教え方が厳しいとか優しいではなくて、平易かどうかという点ですが、僕は高専と大学との両方に行って思ったのは、例えば、構造力学を習うのは大学の学生も高専の学生も同じ立場から始めるのですが、高専の教え方というのはわりと分かり易く教えてくれます。僕が感じたのは高専で1年間でやった事が、大学では約1週間から2週間の講義で終わってしまう事が良くありました。それで、どちらがいいのかというと、それぞれ一長一短はあると思うんですが、われわれみたいな一般の仕事についたものからしますと、業務的にはほとんど基本的な梁の概念ぐらいしか使っていないので、優しく教えてもらった方がいいと思います。ただ、ちょっと橋梁の設計などで複雑な計算をする場合は困ります。けど、ある程度知識があれば、本をひっぱりだしてきて、問題にぶつかっていくことができます。

出光 いまは、面倒な計算はほとんどパソコンがやってくれるから難しい計算はやらなくてもいい。ただ、大切な事は出てきた結果が間違っていないかどうか判断できることで、そこのとこがちゃんとできなければいけない。そのため、簡略式なども含めて基本的な優しい例題を十分に理解させておくことが必要ですね。

牧角 土木では計算終了がスタートとなり、それによってものを造らなければならない。実験、実習についてはどうですか。

鮫島 現場で実習するのが一番いいと思います。

牧角 辛島さんのところは一年間ぐらい研修があって、建設機械なんかも実際扱ってみられたようですが、どうでしたか。

辛島 学校で耳で聞くより、現場の方が、体力的にきついけどよく分かります。今の状態の時間割で

は、はやく理解することが求められますから、学校でこうやるんだよとか路盤はどうなっているんだよとかいわれてもピンとこないし、目でみて初めて印象に残ります。研修をすれば、現場での仕事のつながりも勉強できるので、たいへん良いと思います。

久保 女性8人が一緒に入られたんでしょう。8人とも同じような感じを持っているのかな。

辛島 8人のうち5人は実家が建設業という人で、前は事務をやっていたがそれではあまり家に貢献できないというか、仕事分からないから勉強したいという人もいるし、もっと積極的に、出来れば現場監督になりたいという人もいます。

久保 後の3人も建設会社からですか。

辛島 はい。

鮫島 うちの学校は4年の夏休みに、実習でもなんでも経験したい人は、東京とか大阪の会社に行かせてもらえます。

久保 それは希望者ですか。

鮫島 うち希望者です。僕も希望していったんですけど、そこに来ていたほかの高専の人は必修のところもありました。

久保 やらないところをどう思いますか。

鮫島 是非やった方がいいと思います

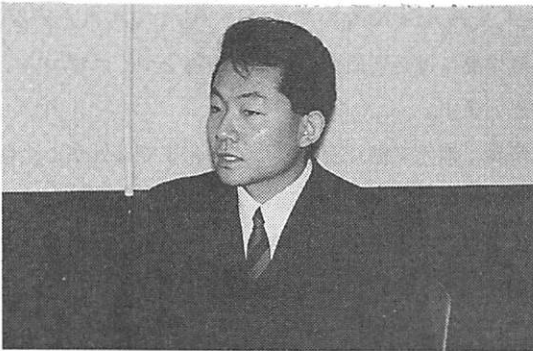
牧角 そういった土まみれじゃないけど現場を通じて、土木をより好きになるという事はありますか。

鮫島 僕はその実習ではコンサルの実習にいったのですが、やっぱり僕は室内でやるのはいやだなと思いました。見積りとか一日中机に向かって死ぬんじゃないかと思うぐらい息苦しかったので(笑)、その後、冬休みか春休みに、ゼネコンとはとても呼べないような近くの小さな会社に行ったんですけど、確かに体力的にはつらかったんですけどそっちの方が面白かった。そっちの方がいろんな物を造る手順とか期間は短かったけど実感できて面白かったです。就職もゼネコンにしました。

● 九州の将来像 ●

牧角 司会の不手際で予定を過ぎてしまいました
が、最後に、九州の将来像として、活性化してど
んどん発展して言った方がいいと思うのか、このま
ま自然環境なども考えて、ゆったりした空間と時間
をキープしていった方がいいと思うのか、若い人た
ちがどう考えておられるのか知りたいのですが…。

財津 私は、先生方の話で東京はもう爛熟してい
るというのがありましたけど、そういうのは追わな
くて、特色を出すのであれば九州は環境でいくん
だという方がいいと思います。私は関東にもいた
から何となく感じるんですけど、九州の人と東京
圏の人とは考え方にかなり差があると言うか、九
州は男気とか女気とかが残っていて、意気に感
じてやるという意識がある。そんな人間的な所を
特色として出して行けばいいんじゃないかと思
います。



財津 公明 氏

出光 財津さんは先ほど大分から1時間でいろ
んな所と結ばれたいと言われたけど、それと九州
は環境重視という考え方の関係はどうなります
か。

財津 それをやるために、僕は、森林を伐採し
ようとかの考えはなくて、ただ速く行きたいと
言うだけの話です。先ほどの話のように、森林
を通るときには森林の中に埋もれていくとか
の方法でやれば、そういう事は可能だと思
います。

久保 皆さんのアンケートを見せていただくと
やはり自然と調和したいという意見が多いで
すね。という事はやはりもう少し環境を重視
しなければダメだ

という事ですね。

河原田 3、4年前だったと思いますが、福岡
でよかトピアを催していたとき、同時期に佐賀
の吉野ヶ里遺跡も発見されていて、それが観
客を呼び込んで、よかトピアがだいぶん客を
くわれたという事がありました。そういう文化
的遺産、史跡が結構九州には多く残ってい
るから、それを核にして九州をPRしていけ
ばいいと思うし、そのためにさきほど財津
さんが言われたように交通体系を整備しな
ければならないと思います。核になる県庁
所在地を結ぶ事は非常に大切だし、同じ物
が福岡県にも佐賀県にあってもつまらない
から、こっちの都市の機能は福岡県で、こ
っちの自然にあるような物は佐賀県という
ように、各県で特徴をそれぞれ出し合っ
て、それを結んで行けば、九州としての総
合的なレベルアップが可能ではないかと思
います。

上月 私は逆にですね、環境を壊す事ばかり
恐れて、やりたい事もできないよくだと活
性化もできないんじゃないかという考えを持
っています。無謀な活性化じゃなくてきち
っとした計画があれば、それは別に環境を
無視するわけでもないですし、人間が作り
出した物が必ずしも環境を損ねるとい
う問題でもないと思います。人間が造った
構造物が自然とすごくマッチしているとい
う例はたくさんある。ですから、今から10
0年後を見据えた土木計画が必要だと思
います。そういう計画というのをみんな
で持ちよって、こうしようというみんな
の気持ちがあれば環境というものにし
りごみするんじゃないで、積極的に活
性化というものに当たった方がいいん
じゃないかという気がします。

牧角 活性化しないと若者が都市ばかりに
集まるから環境を守る人がいなくなる
という事にもつながるかもしれない。過
疎のために環境を守る人がいないの
が九州で大きな問題になっている。

淵上 土木は公共事業ですが、各地に平
等に物を造るのが必ずしも民主主義と
は限らないと思います。

いまは平等主義より重点的に良いものを造った方がいい時代かも知れません。子供の頃に夢見たような物を造りたいのですが、そのためにもお金の事にとらわれず、思いきった土木の仕事が出来る体制になってほしいなと思います。

松野 今まで土木に親しみを持ってとか話がありましたけど、3Kの問題でいろんな所を見ていると、土木業界にはロボットが進出していなくて、人間の手でやっている事が多いんですけど、例えば自動車を造っている工場では人が溶接するんじゃなくてロボットが全部やって、きつい、汚い、危険なことはロボットがしてくれる。土木業界でもきつい仕事とか汚い仕事とかをロボットや機械にやらせていけば土木のイメージももっと上がると思う。また、歴史的な自然と調和した構造物なんかは残して、親しみのもてるような構造物として残して行くべきだと思います。



松野 進 氏

秦 大分とか鹿児島とかはまず高速道路を造って、さっきいわれていたように近くの県庁所在地までは1時間ぐらいで行けるぐらいになるまでは高速道路を整備して、そしてその後に環境のことを考えればよいと思います。

本田 交通体系や情報網とかそういう面を活性化させることは重要です。それによって週末は福岡に来てショッピング、平常の生活は地元にいるという若者向けの生活スタイルも可能となります。

鮫島 世間では3K,5Kなどと言うけど、僕は3Kとかは思っていないし、思っている奴らには言わしてお

けばいい。要は土木をやっている人たちが自分達の仕事に誇りを持ってやれば、何をいわれてもどうってことはないんじゃないかなと思います。

自分の住んでる鹿児島について、鹿児島出身の長渕剛がラジオで「鹿児島が汚くなった、いろんな物がごちゃごちゃあってきれいな街を汚くしている」と言っていました。県外にいる人からそういわれないと、住んでる人はなにも気づかない。だから道路とか、そういうものはちゃんと造って行って、景観を損ねないようにしていけば、鹿児島は生きていく上でいいところだと思う。

久保 中に住んでる人と故郷を外からみる人とはギャップがあると思いますが、あなた自身は長渕剛の方を支持しますか、それとも汚く見えるけどそれは必要なものだと思いますか。

鮫島 その場合、いろいろ考え方はあると思いますが、自分はやらないでいいことをやるのは止める。鹿児島には必要最低限ぐらいの物をつくれればいいと思います。

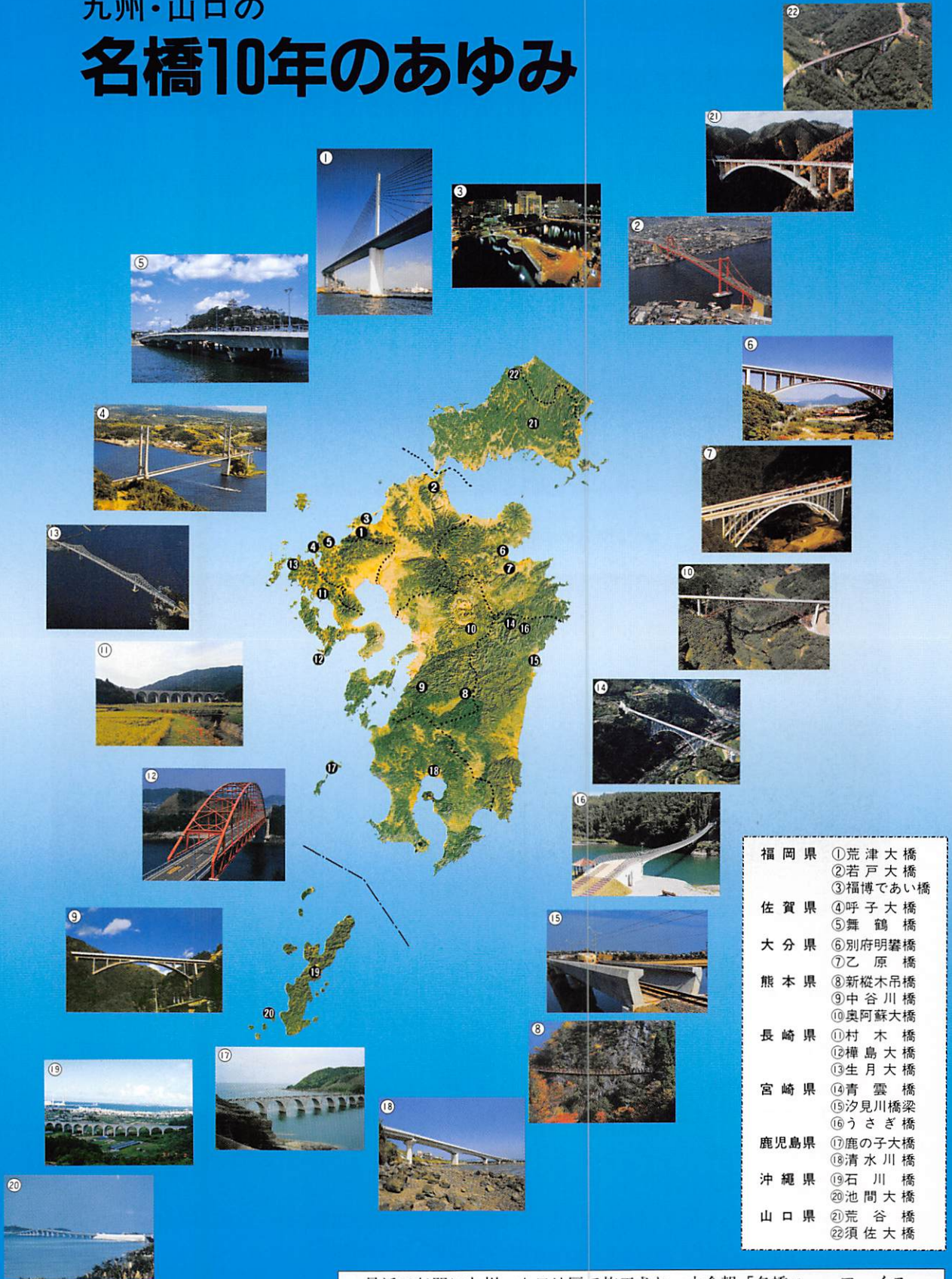
辛島 地元で働く若者として、今までは外がよく見えて、あこがればかり描いていたけど、今からは宮崎のよいところに向けて、環境を考えた宮崎の開発、活性化出来るようなことを進めて行けるようにしていきたいです。それから、今日参加させてもらって感じたのですが、宮崎は情報を受け入れるのにまだ遅れているから、これからは新しい情報をどんどん取り入れていきたいと思います。

牧角 まだまだ、お聞きしたいのですが、予定の時間が参りました。今日は長い間、貴重なご意見をお話し頂いてありがとうございました。みなさんの土木に対する情熱や心意気がひしひしと伝わって参りました。KABSE10周年記念として、大変意義深い座談会ができました。心から御礼申し上げます。

謝辞 座談会開催に際し、ご協力を賜った九州大学工学部建設都市工学教室に深謝の意を表します。

九州・山口の

名橋10年のあゆみ



- | | |
|------|---------|
| 福岡県 | ①荒津大橋 |
| | ②若戸大橋 |
| | ③福岡であい橋 |
| 佐賀県 | ④呼子大橋 |
| | ⑤舞鶴橋 |
| 大分県 | ⑥別府明礬橋 |
| | ⑦乙原橋 |
| 熊本県 | ⑧新縦木吊橋 |
| | ⑨中谷川橋 |
| | ⑩奥阿蘇大橋 |
| 長崎県 | ⑪村木橋 |
| | ⑫樺島大橋 |
| | ⑬生月大橋 |
| 宮崎県 | ⑭青雲橋 |
| | ⑮汐見川橋梁 |
| | ⑯うさぎ橋 |
| 鹿児島県 | ⑰鹿の子大橋 |
| | ⑱清水川橋 |
| 沖縄県 | ⑲石川橋 |
| | ⑳池間大橋 |
| 山口県 | ㉑荒谷橋 |
| | ㉒須佐大橋 |

最近10年間に九州・山口地区で施工され、本会報「名橋ニューフェイス」
「工事紹介・報告」で取り上げた橋梁の中から、主な22橋を選びました。



▲若戸大橋(福岡県) [28年ぶりにワイドにリフレッシュされたわが国最初の本格的吊橋。]



▲福博であい橋(福岡県)

[那珂川を跨いで福岡のビジネス街天神と博多の
歓楽街中洲を結ぶ3径間連続PC中空床版橋。]



▲荒津大橋(福岡県)

[九州の海の玄関博多湾口に架かる鋼斜張橋で、厳しい
[冬の季節風に対する制振対策も講じられている。]



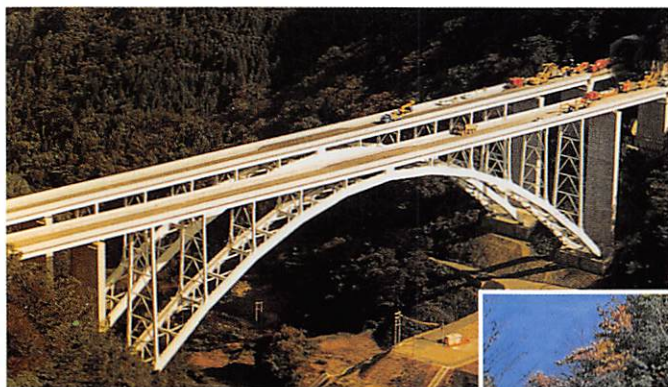
▲呼子大橋(佐賀県) [玄海国定公園内にある呼子と離島加部島を結ぶ主径間 250mの3径間連続PC斜張橋は、このクラスで日本一の規模を誇る。]



▲舞鶴橋(佐賀県) [唐津市のシンボル唐津城の眼下に新しく架け替えられた5径間連続PC箱桁橋。]



▲別府明礬橋(大分県) [別府の温泉地帯に架かる東洋一のRC固定アーチ橋で、強酸性の厳しい環境条件下で種々の防食対策が講じられている。]



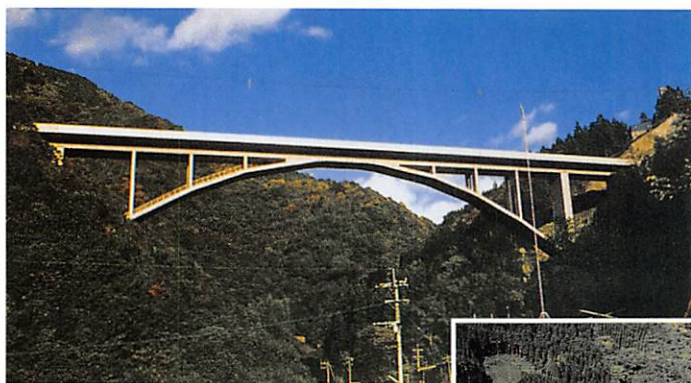
▲乙原橋(大分県)

〔大分自動車道別府～大分間の狭隘な谷に架かる橋長 256mの鋼逆ローゼ橋。〕



▲新縦木吊橋(熊本県)

〔平家落人の里五家荘の急峻な谷間に架けられた別名“あやとり橋”とも呼ばれるPC吊床版橋。〕



▲中谷川橋(熊本県)

〔九州自動車道八代～人吉間の急峻なV字谷に架かる逆ランガー形式RC固定アーチ橋で、大型特殊ワーゲンをを用いた独特な施工法が、施工技術の先駆けとして高く評価された。〕

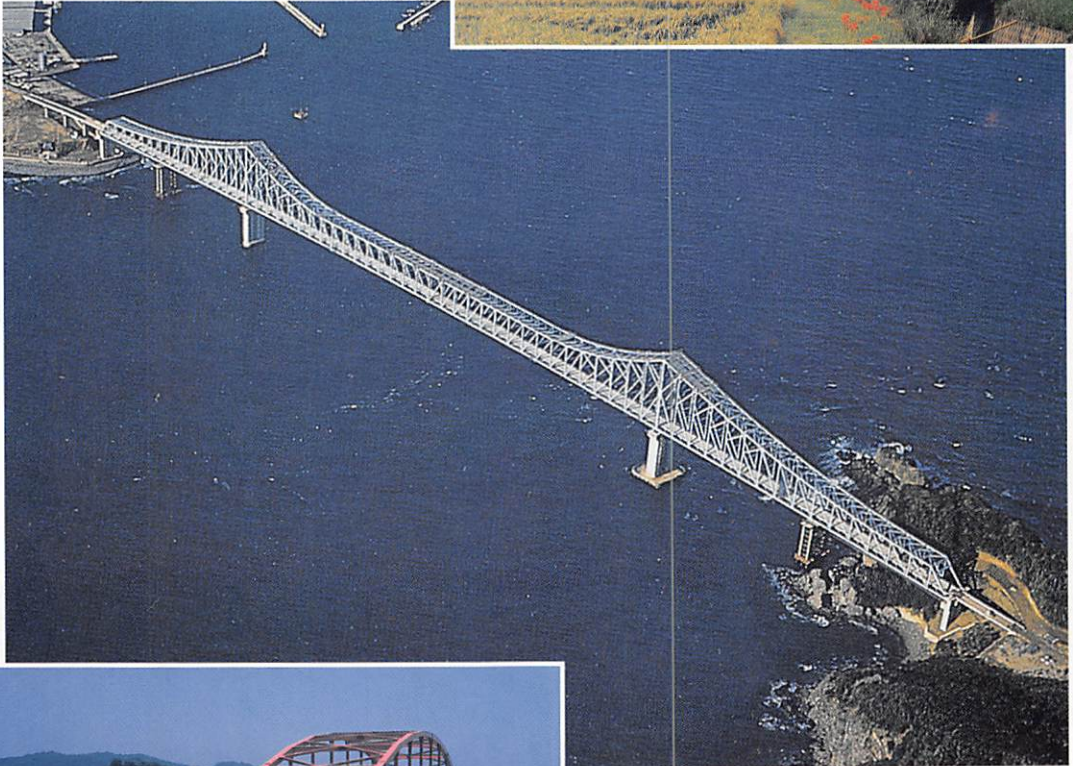
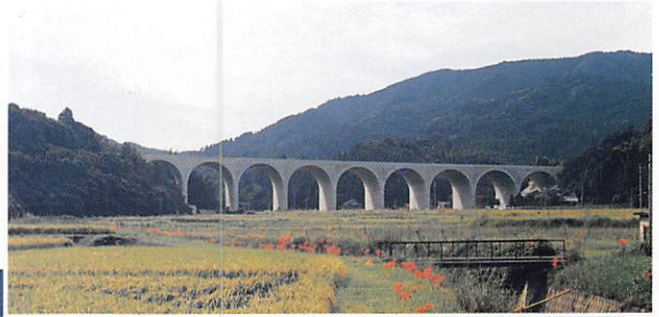


▲奥阿蘇大橋(熊本県)

〔神話・伝説の古里奥阿蘇に架かる橋長 360mの2ヒンジブレストリップアーチ形式の無塗装耐候性橋梁。〕

村木橋(長崎県) ▶

〔石造アーチ橋の多い九州の風土と維持管理・耐久性の利点を考慮して施工された全長 205mの9径間連続RC充腹アーチ橋。〕

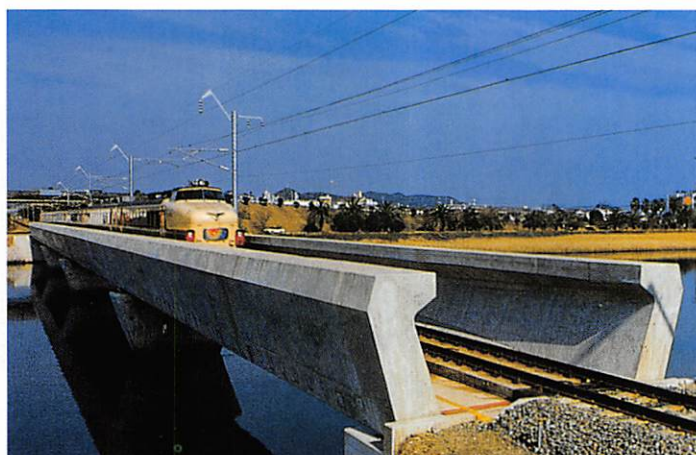


▲ 生月大橋(長崎県)

〔長崎県西北端生月島と平戸島を結ぶ中央径間400m、全長800mの3径間連続鋼トラス橋は、本形式で世界一の規模を誇る。〕

▲ 樺島大橋(長崎県)

〔長崎市の南西野母半島の先端に架かるアーチ〔スパン 152mのランガートラス橋。〕



◀ 汐見川橋梁(宮崎県)

〔鉄道橋として初めて全面的に人工軽量骨材を使用し、景観にも配慮した4径間連続PC下路桁橋。〕



◀ 青雲橋(宮崎県)

〔高千穂の深い溪谷に架かる橋長410mのスバンドレルプレートアーチ橋。〕

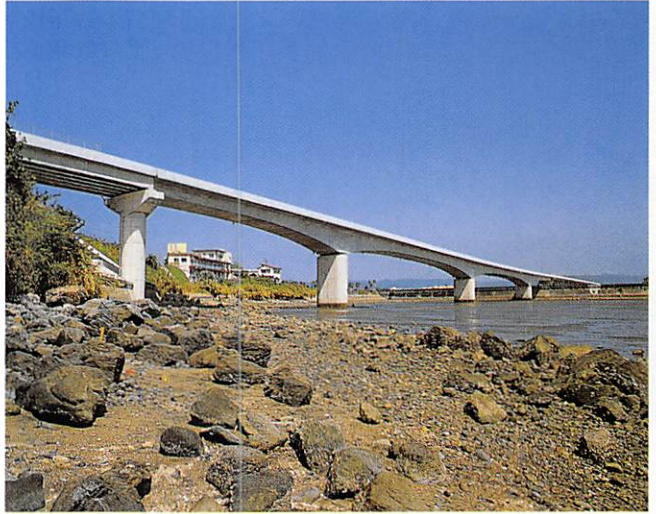


▲ うさぎ橋(宮崎県)

〔宮崎県の北部五ヶ瀬川の川面に白い優美な姿を映すPC吊床版橋で、支間115mは本形式でわが国最大規模を誇る。〕

清水川橋(鹿児島県)▶

〔桜島を背に単人道路に架かる4径間連続P C箱桁橋で、耐震安定性向上のため、ゴム支承を用いた水平反力分散構造を採用している。〕



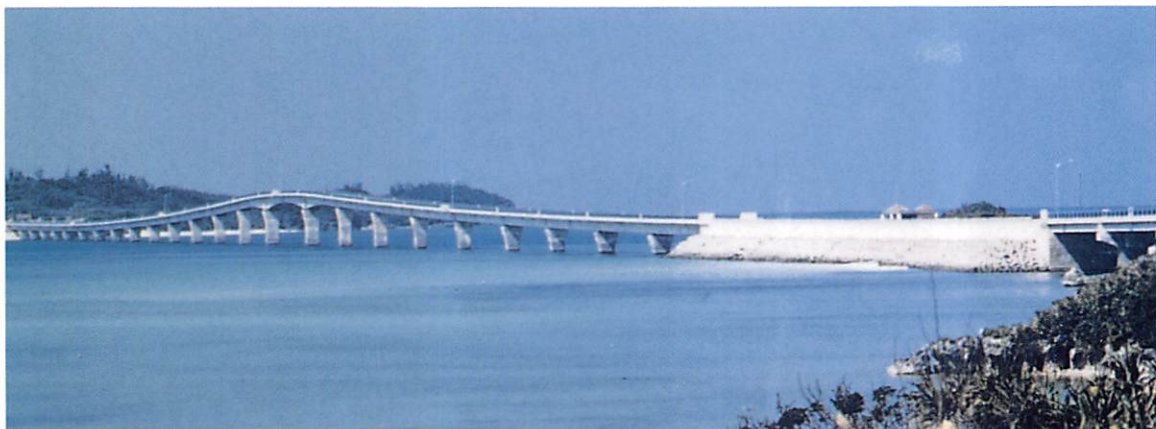
◀鹿の子大橋(鹿児島県)

〔東シナ海に浮かぶ風光明媚な甑列島の東端に施工された全長 240 m の充腹式連続アーチ橋。〕



▲石川橋(沖縄県)

〔伝統的形式の中に、維持管理の経済性と景観上の新しい息吹きを吹き込んだ〕
〔13径間連続充腹式アーチ橋。〕



▲池間大橋(沖縄県) [沖縄本島のさらに南、宮古島と池間島を結ぶ全長1,425mの連続P C箱桁橋は、プレキャストブロック張出し架設工法を用いたわが国では最大級のP C橋。]



▲須佐大橋(山口県) [風光明媚なV字渓谷に架かる無塗装耐候性鋼材を用いた国内最大級の逆ローゼ橋。]



▲荒谷橋(山口県) [山口市宮野の荒谷ダムの玄関口として、深さ60mのV字谷を跨ぐ本県で初めてのR C固定アーチ橋。]

諸元一覧(集約表)の作成と編入

会報で紹介された橋梁の諸元一覧

橋名	所在地	橋長	橋幅	橋脚	橋台	橋脚	橋台
山口県道第1号線	山口県美祿町	1.2	10.0	RC	RC	RC	RC
山口県道第2号線	山口県美祿町	1.5	10.0	RC	RC	RC	RC
山口県道第3号線	山口県美祿町	1.8	10.0	RC	RC	RC	RC
山口県道第4号線	山口県美祿町	2.1	10.0	RC	RC	RC	RC
山口県道第5号線	山口県美祿町	2.4	10.0	RC	RC	RC	RC
山口県道第6号線	山口県美祿町	2.7	10.0	RC	RC	RC	RC
山口県道第7号線	山口県美祿町	3.0	10.0	RC	RC	RC	RC
山口県道第8号線	山口県美祿町	3.3	10.0	RC	RC	RC	RC
山口県道第9号線	山口県美祿町	3.6	10.0	RC	RC	RC	RC
山口県道第10号線	山口県美祿町	3.9	10.0	RC	RC	RC	RC
山口県道第11号線	山口県美祿町	4.2	10.0	RC	RC	RC	RC
山口県道第12号線	山口県美祿町	4.5	10.0	RC	RC	RC	RC
山口県道第13号線	山口県美祿町	4.8	10.0	RC	RC	RC	RC
山口県道第14号線	山口県美祿町	5.1	10.0	RC	RC	RC	RC
山口県道第15号線	山口県美祿町	5.4	10.0	RC	RC	RC	RC
山口県道第16号線	山口県美祿町	5.7	10.0	RC	RC	RC	RC
山口県道第17号線	山口県美祿町	6.0	10.0	RC	RC	RC	RC
山口県道第18号線	山口県美祿町	6.3	10.0	RC	RC	RC	RC
山口県道第19号線	山口県美祿町	6.6	10.0	RC	RC	RC	RC
山口県道第20号線	山口県美祿町	6.9	10.0	RC	RC	RC	RC
山口県道第21号線	山口県美祿町	7.2	10.0	RC	RC	RC	RC
山口県道第22号線	山口県美祿町	7.5	10.0	RC	RC	RC	RC
山口県道第23号線	山口県美祿町	7.8	10.0	RC	RC	RC	RC
山口県道第24号線	山口県美祿町	8.1	10.0	RC	RC	RC	RC
山口県道第25号線	山口県美祿町	8.4	10.0	RC	RC	RC	RC
山口県道第26号線	山口県美祿町	8.7	10.0	RC	RC	RC	RC
山口県道第27号線	山口県美祿町	9.0	10.0	RC	RC	RC	RC
山口県道第28号線	山口県美祿町	9.3	10.0	RC	RC	RC	RC
山口県道第29号線	山口県美祿町	9.6	10.0	RC	RC	RC	RC
山口県道第30号線	山口県美祿町	9.9	10.0	RC	RC	RC	RC

会報で紹介された橋梁の諸元一覧

① 橋名	② 企業者	③ 設計者	④ 上部工施工者	⑤ 所在地
円座橋	大分県	中央コンサルタント	富士ピーエス	大分県宇佐郡院内町
荒谷橋	山口県	大日本コンサルタント	住友建設	山口県山口市
川副大橋	佐賀県	東京建設コンサルタント	宮地鉄工・佐世保重工業 日立造船・三菱重工業 横河ブリッジ・名村造船	佐賀県佐賀郡川副町
青雲橋	宮崎県	長 大	横河ブリッジ	宮崎県西臼杵郡日ノ影町
那の津地区高架橋	福岡北九州 高速道路公社	横河ブリッジ・瀧上工業	横河ブリッジ・瀧上工業	福岡市中央区
花瀬大橋	鹿児島県	千代田コンサルタント	川崎重工業	鹿児島県肝属郡田代町
瀬底大橋	沖縄県	大日本コンサルタント 大高コンサルタント	川田工業・金秀鉄工 仲本工業・南洋・国場 大	沖縄県国頭郡本部町
泊大橋	沖縄県	日本港湾コンサルタント	三菱重工業・石川島播磨重工業 日本鋼管 横河ブリッジ	沖縄県那覇市
球磨川第二橋	日本道路公団	オリエンタル コンサルタンツ	住友建設	熊本県八代郡坂本町
球磨川第三橋	日本道路公団	日本構造橋梁研究所	川田建設	熊本県人吉市
樺島大橋	長崎県	長 大	三菱重工業	長崎県西彼杵郡野母崎町
村木橋	日本道路公団	千代田コンサルタント	三井建設・若築建設	長崎県東彼杵郡波佐見町
中瀬戸橋	熊本県 御所浦町	マ エ タ	住友建設・鹿島建設	熊本県天草郡御所浦町
石川橋	日本道路公団	千代田コンサルタント	前田建設工業・松村組	沖縄県石川市
有田橋	宮崎県	大日本コンサルタント	ピーエス	宮崎県宮崎市
花月川大橋	大分県	橋梁設計事務所	オリエンタル建設	大分県日田市
荒津大橋	福岡北九州 高速道路公社	日本構造橋梁研究所	横河ブリッジ・三菱重工業 日立造船	福岡市中央区
中谷川橋	日本道路公団	大和設計	住友建設 新日本コンクリート	熊本県八代郡坂本村
川内川橋梁	九州旅客鉄道 建設省	中央復建コンサルタンツ	横河工事	鹿児島県川内市
汐見川橋梁	九州旅客鉄道 宮崎県	八千代エンジニアリング	富士ピーエス	宮崎県日向市
鹿の子大橋	鹿児島県	日本構造橋梁研究所	富士ピーエス・ピーエス ハザマ・植村組	鹿児島県薩摩郡上飯村
呼子大橋	佐賀県	新構造技術	鹿島建設	佐賀県東松浦郡呼子町

⑥完成年	⑦橋種	⑧上部工形式	⑨橋長	⑩支間割	⑪幅員	会報No.
昭和56年	道路橋	単純PCT桁	52m	51.9	9.25m(全幅)	1号
昭和57年	道路橋	RC固定アーチ	115m	88	5.0m	1号
昭和58年	道路橋	5径間連続 鋼床版箱桁	353.2m	58.6+3@80.0+52.9	9.25m	1号
昭和59年	道路橋	スパンドレルプレーストアーチ	410m	220	12.5m	2号
昭和60年	道路橋	2径間連続鋼箱桁	165m	76.5+88.2	8.64~14.0	2号
昭和60年	道路橋	2ヒンジ鋼アーチ	182m	22.8+22.8+90.0+22.+22.7	8.25m	2号
昭和60年	道路橋	鋼ニールセンローゼ桁 3径間連続PC箱桁 単純PCT桁	762m	139.5	9.75m	2号
昭和60年	道路橋	3径間連続鋼床版箱桁	1,118m	91.2+170.0+91.2	17.5m	3号
昭和61年	道路橋	3径間連続PCラーメン	242m	100.0+101.3+39.3	9.0m	2号
昭和61年	道路橋	(5、6)径間 連続PCラーメン	480m	37.8+3@60.0+37.5 36.7+4@37.2+37.1	9.0m	2号
昭和61年	道路橋	ランガートラス	227m	152	8.5m	2号
昭和61年	道路橋	9径間連続RC充腹アーチ	205m	22.0+7@23.0+22.0	9.0m	3号
昭和61年	道路橋	3径間連続PC箱桁 単純PCT桁	452m	2@20.0+25.0+ (75.0+110.0+75.0) +2@36.5+2@27.0	7.75m	4号
昭和61年	道路橋	13径間連続 RC充腹アーチ	341.9m	13@26.3	9.0×2m	
昭和62年	道路橋	(3、4)径間 連続PC箱桁	355m	(40.0+2@54.52) +(3@54.52+40.0)	9.75m	4号
昭和62年	道路橋	単純PCT桁 単純PCホロー桁	271.65m	3@19.4+19.8+19.4+21.0+ 2@19.4+14.0+17.0+38.75+38.8	13.0/21.5m	4号
昭和62年	道路橋	3径間連続鋼斜張橋	345m	185.0+115.0+45.0	2@8.3m	
昭和63年	道路橋	逆ランガー形式 RC固定アーチ	141m	18.1+104.0+18.1 (100.0)アーチ支間	9.0m	5号
昭和63年	鉄道橋	単純鋼トラス	67.7m	66.7	単線	6号
昭和63年	鉄道橋	4径間連続 PC下路桁	132m	30.2+2@35+30.2	単線	7号
平成元年	道路橋	11径間連続 RC充腹アーチ	240m	4@21.0+3@24.0 +4@21.0(24)	9.2m (全幅)	6号
平成元年	道路橋	3径間連続 PC斜張	494.25m	121.0+250.0+121.0	10.9m (全幅)(7.5m)	7号

〈九州・山口の名橋10年のあゆみ〉

① 橋名	② 企業者	③ 設計者	④ 上部工施工者	⑤ 所在地
別府明礬橋	日本道路公団	日本構造橋梁研究所 構造技術センター	鹿島建設・住友建設	大分県別府市
新縦木吊橋	熊本県泉村	マ エ ダ	東京製網	熊本県八代郡泉村
梅の木森公園吊橋	熊本県泉村	マ エ ダ	住友建設	熊本県八代郡泉村
奥阿蘇大橋	熊本県	長 大	日立造船	熊本県阿蘇郡蘇陽町 ～高森町
若戸大橋(拡幅)	日本道路公団	日本構造橋梁研究所	日立造船・横河工事	北九州市戸畑区～若松区
長六橋	建設省	日本構造橋梁研究所	ピーエス	熊本県熊本市河原町
多々良川橋梁	九州旅客鉄道	川崎重工業	東日本旅客鉄道	福岡市東区
峠大橋	鹿児島県	マ エ ダ	トピー工業・日本車輛製造	鹿児島県日置郡山町
天の川橋	熊本県	総合エンジニアリング	松尾橋梁	熊本県球磨郡水上村
桜大橋	熊本県	水野コンサルタント	ピーエス	熊本県球磨郡水上村
椎葉大橋	宮崎県	新構造技術	ピーエス	宮崎県東臼杵郡椎葉村
乙原橋	日本道路公団	中川設計事務所	三井造船・横河ブリッジ	大分県別府市
玉来川橋梁	九州旅客鉄道	JR九州コンサルタンツ	九鉄工業	大分県竹田市
池間大橋	沖縄県	新構造技術	ビーエス・オリエンタル建設 富士ピーエス	沖縄県宮古郡平良市
田野蒼雲橋	宮崎県	新構造技術	ピーエス	大分県南海部郡宇目町
新小山橋	山口県	ヒロコン	極東工業	山口県玖珂郡錦町
新横峰橋	宮崎県	長 大	横河ブリッジ・駒井鉄工	宮崎県東臼杵郡日ノ影町
生月大橋	長崎県	長 大	三菱重工業	長崎県生月島～平戸島
福博であい橋	福岡県	第一復建	オリエンタル建設	福岡市中央区
八坂大橋	大分県 道路公社	中央コンサルタンツ	オリエンタル建設 清水建設	大分県杵築市
第一大野川橋梁	九州旅客鉄道	JR九州コンサルタンツ	鉄建建設	大分県大野郡緒方町
須佐大橋	山口県	第一復建	宇部興産 東京鐵骨橋梁製作所	山口県阿武郡須佐町
清水川橋	日本道路公団	近代設計事務所	コーアツ工業	鹿児島県始良郡隼人町
今泉橋	熊本県	総合エンジニアリング	オリエンタル建設	熊本県八代郡坂本村

⑥完成年	⑦橋種	⑧上部工形式	⑨橋長	⑩支間割	⑪幅員	会報No.
平成元年	道路橋	RC固定アーチ PC2径間連続ラーメン	411m	2@30.0、(235.0)アーチ支間 2@26.5+245.0+2@26.5	9.0m×2	7号
平成元年	歩道橋	PC吊床版	72m	71.529	1.8m (全幅)	7号
平成元年	歩道橋	PC吊床版	116m	105	1.3m	9号
平成元年	道路橋	2ヒンジ・プレストリブアーチ	360m	2@36.6+221.0+2@31.6 (210.0)アーチ支間	8.0m	9号
平成2年	道路橋	3径間連続鋼吊橋	627.3m	41.1+89.0+367.0 +89.0+41.1	15.2m	6号
平成2年	道路橋	3径間連続PC箱桁	123.2m	40.29+41.5+40.29	22.0m	7号
平成2年	鉄道橋	単純鉸桁	223.5m	13.4×3	単線	7号
平成2年	道路橋	3径間連続鋼箱桁	95m	34.0	12.0m	7号
平成2年	道路橋	ランガー桁	99m	97.60	7.0m	8号
平成2年	道路橋	(2、3)径間連続 PC中空床版	140m	2@30.7+3@26.2	9.75~10.25m	8号
平成3年	道路橋	(3、4)径間 連続PC2主版桁	285m	(25.34+25.90+25.25)+ (25.25+2@25.90+25.25)+ (25.25+2@25.90+25.24)	9.75m	5号
平成3年	道路橋	鋼逆ローゼ	256m	25.3+204.0+25.3 (190.0)アーチ支間	9.0m	8号
平成3年	鉄道橋	単純鋼トラス	77.3m	76	単線	8号
平成3年	道路橋	(3、4、5)径間連続PC箱桁	1,425m	60+4@50+4@60+(60+80+ 60)+4@60+5@60+4@50+45	7.75m	6号
平成3年	道路橋	5径間連続 PCV脚ラーメン	310m	91	9.75m	8号
平成3年	道路橋	両端固定PC 有鉸ラーメン	75m	75	10.0m	7号
平成3年	道路橋	スバンドレル・プレースト アーチ	330m	40.0+214.0+2@37.0	(車道) 7.25m (片側歩道) 2.0m	7号
平成3年	道路橋	3径間連続鋼トラス	800m	200+400+24.96	6.5m	8号
平成3年	歩道橋	3径間連続 PC中空床版	78.2m	24.96+27.4+24.96	8.0~18.0m	8号
平成3年	道路橋	6径間連続 PC有鉸ラーメン 2径間連続PC箱桁	600m	(52.3+90.0+3@93.0+90.0 +64.3)+(2@27.3×2))	9.0m	9号
平成3年	鉄道橋	単純PCT桁	98.5m	3@32.6	単線	9号
平成3年	道路橋	鋼逆ローゼ	313.0m	28.0+28.5+199.0+28.5+ 28.0	8.0m	
平成3年	道路橋	4径間連続PC箱桁+ 単純PCT桁	295m	47.8+80.0+80.0+47.8、 37.1	9.0m	7号
平成4年	道路橋	3径間連続PC箱桁	205m+29	92.0	7.75m	7号

① 橋名	② 企業者	③ 設計者	④ 上部工施工者	⑤ 所在地
舞鶴橋	佐賀県	第一復建	住友建設・富士ピーエス	佐賀県唐津市
院内高架橋	建設省	千代田コンサルタント	オリエンタル建設	大分県宇佐郡院内町
唄げんか大橋	建設省	新構造技術	ピーエス・オリエンタル建設	大分県南海部郡宇目町
新早岐瀬戸大橋	建設省	福山コンサルタント	駒井鉄工・栗本鉄工	長崎県佐世保市
新下町橋 (空港大橋)	熊本県	マエダ	ピーエス	熊本県菊池郡菊陽町 ～大津町
うさぎ橋	宮崎県北方町	マエダ	ピーエス	宮崎県東臼杵郡北方町
秋利神2号橋	鹿児島県	長大	竹中土木	鹿児島県大島郡天城町
月出山川橋	日本道路公団	建設技術研究所	日本鉄塔工業	大分県日田市
崎津橋	熊本県	第一復建	オリエンタル建設 富士ピーエス	熊本県天草郡河浦町
とよみ大橋	沖縄県	長大	横河・川田・石川島播磨・宮地 松尾・春本・三井・東京鉄骨	沖縄県尻郡豊見城村
豆津橋	福岡県・ 佐賀県	橋梁コンサルタント	住友建設・ピーシー橋梁	福岡県久留米市大石町～ 佐賀県三養基郡北茂安町
八田江橋	佐賀県	第一復建	三菱重工業・名村造船 松尾橋梁・横河ブリッジ	佐賀県佐賀郡東与賀町～ 川副町
新村12号橋	建設省	日本構造橋梁研究所	東京鐵骨橋梁製作所	宮崎県日南市

(備考) 太字の橋梁はP.18～24の写真で紹介したものである。

〈写真提供〉

日本道路公団、福岡県、佐賀県、熊本県、長崎県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県、山口県、福岡北九州高速道路公社、オリエンタル建設(株)、九州旅客鉄道(株)、昭和鉄工(株)、住友建設(株)、(株)ピーエス、(株)富士ピーエス、(株)マエダ、三菱重工業(株)

写真を提供していただいた以上の各機関の関係各位に、謹んでお礼申し上げます。

会報編集小委員会

⑥完成年	⑦橋種	⑧上部工形式	⑨橋長	⑩支間割	⑪幅員	会報No.
平成4年	道路橋	3径間連続PCラーメン	232m	66.0+100.0+66.0	9.0×2m	8号
平成4年	道路橋	3径間連続PCラーメン	232m	66.0+100.0+66.0	9.0×2m	8号
平成4年	道路橋	3径間連続 PC斜張橋	292.1m	61.05+170+61.05	12.5m	8号
平成4年	道路橋	2径間連続鋼床版箱桁	234.0m	122.35+110.35	10.75m	9号
平成4年	道路橋	4径間連続PC箱桁 単純PC箱桁	305m	56.0+2@80.0+56.0+33.0	11.0m	5号
平成4年	歩道橋	PC吊床版	127.5m	115	1.5m	9号
平成4年	道路橋	RC固定アーチ	115m	75	9.75m	9号
平成5年	道路橋	4径間連続鋼トラス	332m	77.0+77.5+88.0+88.0	9.0m	9号
平成5年	道路橋	単純PCT桁	211.5m	4@35.15+31.2+18.85+ 15.35	6.0/9.75m	9号
平成5年	道路橋	3径間連続鋼斜張橋	445m	150+79+71	24.5m	9号
平成5年	道路橋	5径間連続PC箱桁	355m	52.0+80.5+90.0+80.5+ 52.0	23.0m	9号
平成6年 (予定)	道路橋	3径間連続鋼箱桁	161.15m	46.0+69.15+46.0	20.0m	9号
平成7年 (予定)	道路橋	3径間連続鋼箱桁	320m	43.95+55.0+43.95 55.0+65.0+55.0	8.0m	5号

KABSE に寄せる

KABSE 草創の頃

三池 亮次

九州橋梁・構造工学研究会（KABSE）は、いよいよ今年で創立10周年を迎えることになるのと、心から御慶び申し上げます。

昭和39年に小生熊本大学に赴任致しました。それ以前に勤務した関西や東京での土木学会では、講習会その他種々の恩恵に浴しておりましたが、それに比べると九州における学会活動は低調で、九州地区大学高専会議でそのような質問をした所、山内先生から、理由は何かと逆襲を受け返答に窮した思い出があります。昭和58年に太田先生からKABSE設立の協力の御依頼を受け、土木学会の活動を側面から支援するのであるなら、小生のかねての要望とも合致し賛同の意向を表明しました。

KABSE創立時の副会長の話があり戸惑いましたが、会長の小坪先生からこの会は若手研究者の育成の場でもあり、研究活動は彼等に任せておけばよいとのことで、御引き受け致しました。

昭和61年には会長の小坪先生が九大を御退官で、太田先生から新会長役の御依頼がありましたとき、青天の霹靂の思いでした。九州は、吉田徳次郎、鷹部屋福平先生など、かつて橋梁、構造工学の分野で指導的役割を果たされた所で、責任の重大さに身の引き締まる思いもしました。小坪前会長の運営の方針を忠実に踏襲しておればよいと思い、とくに経理面で大過のないよう心掛けたつもりです。

会長を4年間務め、KABSE発足以降5年を経過し、会の運営もようやく軌道に乗ってきたように思い、会長を渡辺先生に引き継ぎました。

KABSE設立後10年を迎え、さらに次の20周年へ向けて、益々充実し、九州地区の橋梁構造工学等の研究の中核として、貢献されることを期待する次第です。

（KABSE 前会長、熊本大学教授）

KABSE10周年記念に寄せて

太田 俊昭

KABSEが満10歳となりました。それは、よちよち歩きでなく、胸を張った実に堂々とした歩みでした。自画自賛ではなく、関東や関西地区の橋梁・構造・材料分野の権威も大いに感服され、巻頭言に応じられるなど多大の敬意を払って下さいました。このようにKABSEは設立当初、私が期待していた以上の道のりを踏破し、この10年間で成し遂げた成果は、真実、誇り得るものと云えます。

このような成功は、九州地区の若き研究者、技術者、および行政官の方々の情熱と使命感に根ざしたエネルギーが大きく結集されたからであり、その底辺には九州の活性化を切に願う一致した心、共通の目的があったからだと考えます。このことは、KABSE設立準備会の5年に及ぶ準備活動の時にも感じたことでした。当時の彦坂九大助教授、烏野九大助教授、後藤長崎大助教授、吉村九産大助教授、九地建の北之園氏、福岡市の藤井氏等福岡在任者を中心に何度も会合を重ね、本会の設立の目的、方法、資金、運営方針、活動内容等について激論し、問題の洗い直しを行いました。そして、その日の結論が得られない時や様々な問題が解決不可能に見えた時、最後は「ともかく、くじけず頑張ろう」と

互いに励ましあったことが、今なお鮮明に心に甦ってきます。何分初めての試みであり、特に資金集め、会の組織作り等については、初歩的知識しか持ち合わせていませんでしたが、この点に関しては、筒井氏（九産大理事）から多くの建設的な助言を戴けたことも幸運でした。具体的に云えば、『まず、きちんとした理事会を設けて、社会に対する責任の所在を明示し、その上で若い人達が実質的な企画運営を運営委員会で民主的に行えば、確実性と柔軟性および自律性を備えた運営ができる。』という、今に思えば実に適正な指摘がございました。

以上の他にも、九州、山口地区の産業界・官界および学界の多くの方々から物、心両面のご支援を戴きました。そのおかげで準備会では不可能に思われたKABSE構想が1983年11月11日、九州大学同窓会館において九州橋梁・構造工学研究会（KABSE）として立派に結実し、市民権を得たわけです。

初代会長には小坪九大教授（当時）が、運営委員長には私が当ることとなり、その運営は若い人達が中核となり、誇りと責任をもって民主的に行うことになりました。そして、今日までに3代の会長、3代の運営委員長が順次その任にあたったわけではありますが、設立の精神は、今なお受け継がれ、明日への発展の原動力になっているものと確信します。本会の設立と運営にあたり、ご支援賜りました関係各位にこの紙面をかりて、あらためて心より感謝申し上げる次第です。

（KABSE理事・九州大学工学部教授）

KABSE 発足 10周年に寄せる

織戸 鐵太郎

昭和58年11月、九州橋梁・構造工学研究会の発足にあたり、その主旨に賛同して法人会員に加入し、我が社の若手技術者が外の世界との接触を通じて技術のレベルアップを図る事が出来ればと、個人会員を32名勧誘した事が、昨日の事のように思い出されます。

あれから10年、会がこのように発展したことは、誠に御同慶の至りであります。官・学・産が一体となった組織が、地方でこのような発展を見たのは、他に例がないのではないのでしょうか。

その間、私がした事は、定期的開催される運営委員会に会社の会議室を提供したことと、監事として年に一度の会計監査をただけで、全くお恥ずかしい限りですが、私自身は、会計監査を通じて、いろいろと勉強をさせて戴きました。と申しますのは、会計書類を見ていると、会員の方々の活動が生き生きと見えて参ります。物事を裏から見ると言う事になるかと思いますが、多少オーバーに言くと、ベテランの経理マンが、金の流れから、組織の動きを把握するのはこう言う事かと、技術者の私としては、新鮮な発見でした。

それにしても、事務局を担当して居られる藤井幹事及び事務局の委員の方々の御苦勞は大変なものだと思います。各分科会等から集まってくる膨大な資料を、パソコンを駆使して正確に分類・整理し、誰が見ても分かる書類になっております。そういう意味では、事務局の方々は、KABSEを10年間、陰で支えて来た功勞者であると思います。事務局の方々に深く感謝申し上げますと共に、今後共、一層の御尽力をお願い致します。

会員一人一人が支えるKABSEが、今後15周年、20周年を目指して、大いに充実、発展されます事を念願しながら、私も微力を尽くして参りたいと思います。

（KABSE監事、オリエンタル建設(株)福岡支店長）

KABSEの裏方に徹して

藤井 利治

昭和58年11月のKABSEの設立総会資料を見えています。会員数一種会員159名（現在322名）、昭和58年度予算3百万円弱（現在1千万円）。隔世の感があります。設立準備委員40名のうち、現在も運営委員として活躍されている方が8名います。

私は、昭和43年福岡市役所に入所し、水道局で筑後川取水事業や福岡大湯水を経験し、昭和56年4月土木局道路計画課で道路橋梁に従事することになりました。この昭和56年にKABSE設立準備会が開かれ、そのメンバーとして参加することになり、以来現在まで私の市での道路担当の歴史が、KABSEの準備から現在までの歴史に偶然重なっています。

福岡市は、事務局を仰せつかっています。これは予算、決算、文書、会議等が行政の得意とすること、及び市職員は他と比べて移動が少ないことが主要因でしょう。

事務局の仕事は、経理事務、会員名簿作り、総会資料作成等あまり目に見えない業務ですが、人手を食います。このため昭和58年の設立時から昭和61年頃までは、ほとんど毎週土曜の午後KABSEの仕事をしていただいていたことを思い出します。課長が残業するからでしょうか。若い万代君や川原君が手伝ってくれるようになり、今では福岡市の若手技術者が頑張っているKABSEの事務を支えています。

KABSEは、九州大学の太田俊昭教授、歴代の会長によって発展してきたのは事実ですが、私の知っている影の協力者も忘れてはならないと思います。会発足時に会則や業界への橋渡しをされた筒井寅吉氏（現九産大専務理事）、会員拡大に御尽力いただいた北之園宏氏（現福岡北九州高速道路公社企画室長）、そして会議室を無償で使用させて頂いているオリエンタル建設㈱、さらには公式の場でなく議論提供の場を与えている博ちゃん（宮下正博・洋子氏）に心よりお礼を申し上げます。

これからも、KABSEの一層の発展を期待して、事務局は福岡市で担当させていただきKABSEの裏方に徹してまいります。

（KABSE事務局幹事、福岡市土木局道路計画部長）

九州橋梁・構造工学研究会 10周年を振り返って

宮地 宏吉

九州橋梁・構造工学研究会が誕生して早や10年！九州管内を主体とする産・官・学の研究者、技術者が職場の壁を乗り越えて技術交流と地域の活性化を図る事を目的として発足した訳ですが、その間着々と実績を重ね“KABSE”の知名度は九州管内のみならず関西、関東方面へも浸透しつつある様です。

この度の10周年記念をむかえるにあたり、心からお慶びを申し上げます。

会発足当時、準備にあられた諸先輩、今日の基盤を築かれた関係機関の諸兄、そして会発足の趣意を理解され台所を支えている法人並びに個人会員の方々の結集された成果の賜であり、今後とも、益々の発展を期するところ大であります。

私は、会の発足当初より運営委員として活躍する機会を受け賜り、会の運営、分科会活動、講習会、研修視察旅行等の参加を経て、産・官・学のあらゆる方面の方々と触れ合う機会を得た事は、私自身

にとっても生涯のかけがえのない財産であります。

当初、研究連絡委員を担当し分科会規定の草案、分科会研究テーマの募集、予算案の作成等のお手伝いの傍ら、知名度のない“KABSE”のPR活動に奔走しました。特に会の活動経費を確保するために法人会員の理解と援助が不可欠であった訳です。

その後、会社事情により大阪転勤となり会の活動もおろそかになりがちですが、最近では関西方面でもKABSEの名を耳にする事があり心はずむ思いであります。

私の思い出の1つに、“斜張橋の設計と施工”の翻訳出版のお手伝いをさせていただいた事があります。複数の個人会員が集まり“W. PodolnyとJ. B. Scalziの著書”を分担で翻訳、日本語版の専門書として出版する訳ですが、途中で何度も挫折しかかった私共を根気よくリードし最後まで指導して下さいました九州大学工学部太田教授には頭の下がる思いでした。

2年後、出版物を手にした時はとても感動したものです。

この様に、本会員の方ならどなたでも自由に分科会活動に参加する事が可能であり、職場、立場、年齢差等を越えて活動できるのが本会の特長の1つです。

創立10周年を節目に更なる飛躍と、広く愛される“KABSE”である事を願ってやみません。

(パシフィックコンサルタンツ(株)西日本事業本部第二技術部長)

はじめまして KABSE 様

岡田 真由美

KABSE創立10周年を迎え、私は初めて原稿をしたためることになった。研究会発足の10年前はまだ高校生で、将来橋梁設計に携わるとは思いもよらなかった頃である。その後大学の土木工学科に進み研究室に入る頃から先生の影響もあり、橋梁の設計に興味を持ち始めた。KABSEの存在を知ったのもこの頃である。

ところがその後、会社に入り4年になるが、直接関わる機会がなかったせいKABSEの詳しい活動内容はこの原稿を依頼されるまで理解していなかった。(恥ずかしながらこういうことを書くと思師Y先生に叱られそうだが。)そのため、あわてて会報を送って頂いた次第である。

その会報の中で一番に興味を持ったのは、「橋梁の歴史的評価と保存・再生に関する研究」であった。熊本県下で何年も前から人々の生活を陰ながら支えてきた橋梁が、次々に姿を変え更には廃橋となってしまうこともある実状を知った。私はこの報告で子供の頃のある出来事を思い出してしまった。

大分県の小野川沿いに私の実家があり、すぐ側に2つのアーチを有する石橋(全長75m程度)があった。付近の住民にとって隣町や大分市内に行くためにはとても重要な橋であった。小6のとき、車が通ると体ではっきりと揺れを感じる程老朽化が進んだため、表面全体をコンクリートで覆い補強する工事が施された。苔むしてガタのきいていた石橋だったが、白灰色のコンクリートの姿と化してしまったときはなにかとてもつまらない橋になった気がしてならなかった。その後平成2年の大洪水で左側の岩もろとも橋半分が流され、その白い姿を消した。残ったのは石彫の橋石板だけである。

この子供の頃の思いから古くとも長い歴史をもつ橋を一橋でも多く救えるようこの研究を続けて頂きたいと思う。そして、夏には出産を控えつつ10年後も今の仕事を続けているはずである私も、その頃には活動に参加できる余裕があることを祈りたい。

(新構造技術(株)九州支店)

10才！おめでとう

大塚 久哲

設立準備会で、本会のありようを議論していたことがなつかしく思いだされます。討議の内容は、研究会の規模のことが主で、いまの分科会1個程度をイメージしている人が多く、現在の規模に意見を集約させるまでかなりの時間を要しました。10年経った今、全国に高い知名度を有する研究会に成長したことをうれしく思います。構造・材料屋さんの密度が高かったこと、元気な人が多かったこと、周囲の暖かい支えがあったことなどが成功の要因としてあげられましょう。

小生自身も、基礎の限界状態設計法や長大斜張橋の開発に関する分科会で、各界各位のご協力を得て、全国レベルの仕事をする事ができましたことを感謝しています。

これからの本会の課題として、法人化の推進が挙げられましょう。これは勿論、これから本会を背負っていく第2世代の方々の考え方によるのでしょうから、広く皆さんで議論されて、今後の本会の舵取りを的確になされることを期待します。

次の10年の活動成果がますます実り多いものとなりますよう祈念いたします。

(建設省土木研究所振動研究室長)

KABSE 創立10周年に寄せて

亀井 正博

KABSEの創立10周年を迎えられましたこと、まことにおめでとうございます。各種の雑誌や刊行物などを通じてではありますが、貴会のご活躍については日頃より拝見させていただいております。特に、限界状態設計法を取り入れたカナダ・オンタリオ州道路橋設計基準の翻訳版を発刊されたことは非常に意義あることで、関西地方の関係者にも高い評価が得られていることをまずは紹介させていただきます。

さて、大阪市が幹事をさせていただいております関西道路研究会・道路橋調査研究委員会におきましては、現在さまざまなテーマごとに小委員会を設置し、産官学の領域を越えた広範囲にわたる研究活動を積極的に行っております。同様の研究会が北海道や関東地方などにも設立されていると聞いておりますが、各地域の研究・技術の活性化に大きな役割を果たしていることでしょうか。貴会におかれましても山口県や沖縄県を含めた九州地方における研究活動のリーダーとして大いに活躍されているとのこと、真に頼もしい思いがいたします。

ところで、地球環境や気象条件、文化的背景などの違いから各地域にはそれぞれ特有の研究テーマがあるわけですが、中には全国共通と考えられるテーマも多々あると考えられます。紀淡海峡や豊予海峡連絡道路など21世紀に向けた大規模プロジェクトが計画されつつある今日、地域の研究会の枠を越えた共同研究や地域毎でのテーマの分担などについても一考に値するのではないかと思います。いかがでしょうか。まずは手始めに、各地域の研究会の運営方法や活動内容などについての相互の情報交換の機会を作って行けばよいと思います。

今後の貴会のより一層の発展をお祈りしまして筆を置くことにいたします。

(大阪市建設局街路部立体交差課主査)

***KABSE* 10年のあゆみ**

- I 特別講演会
- II 講演会
- III 講習会
- IV 見学会
- V 研究分科会
- VI 出版物一覧
- VII 会報総目次
- VII 土木構造・材料論文集総目次

I 特別講演会

テ ー マ	講 師	年月日	開 催 地
九州地方建設局の道路事業の展望	福岡北九州高速道路公社理事長 佐藤 幸甫	S.58 11/11	九州大学同窓会館
軟弱地盤上の港湾構造物について	運輸省第四港湾建設局長 寺尾 健		
九州の鉄道の将来について	日本国有鉄道下関工務局長 鳥居 敏則		
本州四国連絡橋事業と技術開発	本州四国連絡橋公団常任参与 下川 浩資		
土木計画と快適環境	東京工業大学社会工学科教授 中村 良夫	S.59 6/15	九州大学同窓会館
充腹式アーチ橋の計画と設計	日本道路公団福岡建設局構造 技術課長 西田 巖		
長野県西部地震の調査と大規模土 砂崩壊のメカニズム考	長崎大学工学部土木工学科 助教授 後藤恵之輔	S.60 6/14	九州大学同窓会館
福岡市高速道路鋼斜張橋荒津大橋 の概要	福岡北九州高速道路公社 福岡事務所長 榑野 利治		
天山揚水発電所の工事について	九州電力天山発電所建設所次長 藤本 順一		
海洋温度差発電の開発の現状と展 望	佐賀大学理工学部教授 上原 春男	S.61 6/20	九州大学同窓会館
九州の石橋について	テレビ西日本報道製作局 映像第一部次長 榑 晃弘		
私の中のレオナルド・ダ・ヴィンチ像	新日本製鉄第3技術研究所 主任研究員 長尾 由一	S.62 6/19	天神 ガーデン パ レ ス
本四連絡橋児島・坂出ルート of 設 計・施工	本州四国連絡橋公団 企画調査課長 神 弘夫	S.63 6/24	福岡リーセント ホ テ ル
新しいウォーターフロントの姿	運輸省第四港湾建設局博多港 工事事務所長 西島 浩之	H.1 6/16	福岡リーセント ホ テ ル
建設省土木研究所における最近の 先端的研究について	建設省土木研究所長 岩崎 敏男	H.2 6/15	福岡リーセント ホ テ ル
福岡空港ターミナル地域拡充整備 事業について	運輸省第四港湾建設局博多港 工事事務所長 村田 進	H.3 6/21	福岡リーセント ホ テ ル
日本道路公団における橋梁の歩み と現況	日本道路公団福岡建設局 構造技術課長 古賀 文俊	H.4 6/19	福岡リーセント ホ テ ル

II 講演会

テ ー マ	講 師	年月日	開 催 地	主催、共催、後援等
Development of the Ontario Bridge Code	A. S. Nowak	S.60 5/31	九州大学同窓会館	KABSE
最近の斜張橋の進歩と今後の展望	N. J. Gimsing	S.61 4/14	九州大学同窓会館	KABSE
限界状態設計法による鋼構造物の新欧州基準について	U. Vogel	S.62 3/25 3/27	九州大学記念講堂 熊本大学工学部	KABSE
新しい技術に関する講演会	牛田 稔、花村 義久 杉田 卓男、塚崎 征 宮本 晴男、高田 嘉秀 竹中 裕文、寺田 博昌	S.62 4/10	福岡市電気ビル	KABSE
技術発表会	朽網 新、田中 千秋 本木 正之、猪上 高司 今井富士夫、東島 弘 中上昌二郎、朝倉 肇	S.63 2/5	福岡市天神ビル	KABSE 土木学会西部支部
風工学に関する講演会	H. タナカ R. L. ワードロー	S.63 10/21 10/22	九州産業大学 九州工業大学	KABSE 土木学会西部支部 九州共立大学 九州工業大学土木系
技術発表会	川崎 義明、松下 征雄 富沢 三郎、大神 龍馬 坂田 康二、長田 晴道 宮崎都三郎、出光 隆 白岩 督啓、渡辺 敬一	H. 1 1/27	福岡市天神ビル	KABSE 土木学会西部支部
複合材料のAEに関する講演会	小野 桓司	H. 1 11/13	熊本大学工学部	KABSE
技術発表会	石井 孝男、増田 博史 片山 猛、広瀬 宗一 長友 良一、杉山 雅	H. 1 11/17	福岡リーセントホテル	KABSE 土木学会西部支部
中国における解体工学ずい道工学の新技术	榮際凱、候尚武	H. 2 5/21	九州工業大学	九州工業大学 土木学会西部支部 KABSE
W. F. Chen 教授講演会	W. F. Chen	H. 2 5/23 5/26	熊本大学 九州大学	KABSE 土木学会西部支部
技術発表会	堤沢 毅、溝内 俊一 原 満正、平沢 正 里 一男、齊藤 弘志	H. 2 11/20	福岡県自治会館	KABSE 土木学会西部支部

テ ー マ	講 師	年月日	開 催 地	主催、共催、後援等
斜張橋の国際シンポジウム	ギムシング ヴィルロジョー 伊藤 学	H. 3 4/18 4/19	福岡市内	部定式斜張橋研究会 福岡県科学技術振興財団 KABSE 土木学会西部支部
「歴史的橋梁の保存とまちづくり」に関するシンポジウム	崎元 達郎、田島 二郎 篠原 修、藤川 一裕 三浦 洋一、小林 一郎	H. 3 5/25	熊本市産業文化会館	KABSE 日本建築学会九州支部 土木学会西部支部
有限要素解析のための均質化法による等価モデルの形成とその応用	菊池 昇	H. 3 6/12	九州大学工学部	KABSE
技術発表会	村田 進、古賀 文俊 大塚 久哲、山崎 忠雄 入江 功、田中 章二 萩原 兼秀	H. 3 11/20	福岡県自治会館	KABSE 土木学会西部支部
穴あきウェブを有するハイブリッドプレートガーダーの座屈後挙動	Zbigniew Cywinski	H. 4 10/30	九州工業大学	KABSE
第11回国際AEシンポジウム	発表79件	H. 4 10/26 10/29	福岡サンパレス	KABSE AE研究会
技術発表会	荒木 正生、出光 隆 伊東 通陽、吉永 清人 久保 朝雄、瀬戸 芳正 烏野 清	H. 4 11/27	福岡県自治会館	KABSE 土木学会西部支部

担当幹事の思い出

松下博通

KABSEの運営委員会の事業部講演会の委員を承り、KABSE創設時から約5年間、幹事としてのその任にあたりました。

創立時から、講演会を企画し、開催することは、多くの人に「KABSEを認識していただき、その裾野を広げ、研究会の発展充実を図る」ためにも、非常に重要な事であるという認識のもと、講演会担当委員からは、いろいろな意見を頂戴しました。しかし、設立当時は、「産・官・学の連帯が必要」との認識はあったものの、その方法論などにおいては、「指向するものに、どことなく隔たり」があったようです。私の運営の拙なこともあり、講演会の企画案がなかなかまとまらないことが多く、結局は、当初の2年間は総会開催時の特別講演会のみとなってしまう、KABSEの会員に御迷惑をかけたことを、いまでも心苦しく思っています。

講演会の開催が活発になってきたキッカケは、外国人研究者による講演会の開催を始めたことにあったように記憶しています。この企画には、彦坂先生や大塚先生に御尽力いただき、感謝している次第です。

現在のように、活動が活発な中では、あらゆる企画が立案しやすい状況になったのではないかと思います。講演会事業がますます盛況になりますことを祈念します。

(九州共立大学、昭58～62年度担当幹事)

III 講 習 会

テ ー マ	講 師	年月日	開 催 地	主催、共催、後援等
マイコンによる有限要素解析	黒木 健実、荒巻 軍治	S.59 12/12	福岡大学電子計算センター	KABSE 土木学会西部支部
温度応力計算のパソコンプログラム	黒木 健実	S.61 3/13	福岡大学電子計算センター	KABSE 土木学会西部支部
境界要素法の基礎と応用	黒木 健実	S.61 12/17	福岡大学電子計算センター	KABSE 土木学会西部支部
道路橋（鋼構造・複合構造）の限界状態設計法	藤野 陽三、福本 秀志 依田 照彦、佐藤 尚次 崎元 達郎、広田 武聖 福山 俊弘、高橋 和雄 城 秀夫、今井富士夫 大塚 久哲、上平 悟 川村 彰誉、佐竹 正行	S.63 5/7	福岡市天神ビル	KABSE 土木学会西部支部
パソコンを用いたコンクリート構造の限界状態設計法による設計例	出光 隆、松下 博通 山崎 竹博、松本 進 牧角 龍憲、中沢 隆雄 大津 政康、江本 幸雄 武若 耕司、宮川 邦彦	S.63 9/16 H. 1 1/24 2/22	東和大学 九州共立大学 鹿児島大学	KABSE 土木学会西部支部 九州コンクリート技術研究会
基礎の設計法を考える講習会	岡原美知夫、調 修二 中村 孝雄、大塚 久哲 久賀富美男、松井 謙二	H. 1 8/9	福岡市内	KABSE 土木学会西部支部 土質工学会九州支部
構造設計における最適化に関する講習会	古川 浩平、三原 徹治 小林 一郎、高久 達将 大塚 久哲	H. 1 4/28	九州会館ガーデンパレス	KABSE 土木学会西部支部
土木におけるESとCADに関する講習会	中村 秀治、三上 市蔵 小野 定、三木 研一 小椋 一秀、安部 重人 植野 孝雄、山本 清茂	H. 1 10/6	福岡市天神ビル	KABSE 土木学会西部支部
「動的解析と耐震設計」に関する講習会	家村 浩和、秋吉 卓 竹宮 宏和、渡辺 啓行 稲富 隆昌	H. 2 5/11	福岡県教育会館	KABSE 土木学会西部支部 土木学会耐震工学委員会
「地下構造物設計法の現状と展望」に関する講習会	鈴木 智郎、小泉 淳 安田 登、佐藤 紘志	H. 2 5/25	福岡県教育会館	KABSE 土木学会西部支部 土質工学会九州支部 日本溶接協会
「橋梁の健全度診断と維持管理」に関する講習会	稲富 敏泰、村越 潤 大津 政康、関本 宏 瀬戸 芳正、江村 康博	H. 2 11/9	福岡県教育会館	KABSE 土木学会西部支部

テ ー マ	講 師	年月日	開 催 地	主催、共催、後援等
「ファジィ理論の土木工学への応用」に関する講習会	小林 一郎、古田 均 宮本 文穂、背野 康英 金吉 正勝、西土 隆幸	H. 3 5/31	福岡県教育会館	KABSE 土木学会西部支部
道路橋の健全度診断と補修に関するエキスパート情報の整理と分析	松下 博通、山崎 竹博 出光 隆、今井富士夫 山尾 敏考、久保 喜延	H. 4 5/22	福岡県教育会館	KABSE 土木学会西部支部
土木工学へのAE計測の応用に関する講習会	原田 哲夫、山崎 竹博 石田 毅、大津 政康 伊東 良治、岡本 亨久 村上 裕治、畑 浩二 平田 篤夫、上田 貴夫 秩父 顕美、川上 純	H. 4 9/18	福岡リーセントホテル	KABSE 土木学会西部支部
設計・施工技術者を対象とした省力化施工のためのコンクリート橋のブロック工法	中沢 隆雄、牧角 龍憲 手嶋 和男、山口 秀毅 藤本 良雄、古賀 文俊 神田 昌幸、日野 伸一	H. 4 12/10	福岡県教育会館	KABSE 土木学会西部支部 PC建設業協会

担当幹事の思い出

崎 元 達 郎

本会設立当初、論文集の編集に携わって後、昭和63年より講習会担当となった。分科会の成果を基に行う場合は、手間は少ないのであるが、オリジナルな企画の場合は、その当日もさることながら、テーマ・講師の選定、講師の手配、テキストの原稿依頼と印刷と大変であった。要領を得ないまま2年の任期が経っていたが、後進の担当者の育成を心がけておらず、他の部会の担当者は交代されるのに留任という憂き目にあって、さらに2年務めた。2期目は、ノウハウも分り、黒字を出すことができるようになりうれしく思った。しかし、運営委員会からは、予算の援助がなくなり、赤字を出せないプレッシャーと先駆的テーマに取り組めない悩みが生じた。動員には、学会の高森さんに大変世話になった。深く感謝したい。講習会の成功は、「今、是非必要な内容にする」ことにつける。これが小生の貴重な経験です。

(熊本大学、昭63～平3年度担当幹事)

IV 見学会

年月日	場 所	主 な 見 学 構 造 物
S.60 8/2	佐賀県松浦川水系厳木川	天山発電所・厳木ダム
S.61 7/25	本州四国連絡橋 児島・坂出ルート	下津井瀬戸大橋・櫃石島高架橋・櫃石島橋・岩黒島橋・羽佐島高架橋・与島橋・与島高架橋・北備讃瀬戸大橋・南備讃瀬戸大橋
S.62 10/8 10/9	日豊本線大分宮崎間の橋梁	別府橋・網ノ瀬拱橋・第三五ヶ瀬橋・青雲橋・汐見川橋・宮崎実験線
S.63 10/15 10/16	九州横断自動車道 武雄・大村工区	九州横断自動車道山立橋・千綿川橋・江申川橋
H. 1 11/10 11/11	九州縦貫自動車道 八代・人吉間	肥後トンネル・球磨川第2橋・中谷川橋・登俣第1橋・登俣第2橋
H. 2 11/12 11/13	本州四国連絡橋 尾道・今治ルート	生口橋
H. 3 11/8 11/9	熊本県阿蘇地区	黒川大橋・奥阿蘇大橋・熊本の石橋群・通潤橋、霊台橋
H. 4 10/23 10/25	本州四国連絡橋 関西新空港	明石海峡大橋・関西新空港関連工事

担当幹事の思い出

村山 隆之

このKABSEの活動は、産・官・学の皆さんが各界の「カベ」を意識することなく、土木構造物材料等をよりよいものにしていくために、集まっていることから、どちらかと言うと学問・研究面が重視されがちなので「学問研究」という言葉にとらわれず、同じ意識を持った人が気楽に集まれる事業をもとと言うことで企画されたのが「見学会」です。

設立当初は、純粋に土木構造物（特に大型物件）を見学する目的で行っていましたが、私達（一人だけではありませんよ！）が担当するようになってからは、担当主査である私が「旅行好き・温泉好き・何でも見てやろう」という性格なので旅程も日帰りからついでに一泊となり、しかも必ず温泉があるところを目的地とするようになりました。（メインが懇親会かも？）

九州内の大型工事は、辺鄙な場所が多いため、まず担当者数名で事前の下見することとしており、

○時間的には、年間事業のおちつく秋頃。

○場所は、40名程度が泊まれ、しかも懇親会が行える温泉が望ましい。

○参加者については、産・官・学界の一業種に片寄ることなく、しかも、経験の少ない人も大歓迎。

等を念頭において、毎年見学先を決めていますが、単に建設現場だけでなく、鋼橋の製作工場、製鉄所等、日頃見学できにくい箇所もコースに取り組んでいます。

昨年は、九州から飛び出し、本四架橋・関西新空港を見学しました。今年10周年を迎え海外への声があがっていますが、行先、時期、費用及びその手配等の問題があるので、会員の皆さんの意見を聞きながら、近々には実施したいと考えています。

（福岡北九州高速道路公社、昭63～現在担当幹事）

V 研究分科会

「斜張橋の設計と施工」翻訳分科会 (昭59～60年度)				
主査	太田俊昭	構成委員数	産界	11名
副査	川井優		官界	7名
幹事	牧角龍憲		学界	10名
目的・活動内容				
<p>斜張橋の解析・設計・架設・経済性評価等に関する重要な基本事項と豊富な実例を詳細に解説した著書“Construction and Design of Cable - Stayed Bridges”を翻訳出版するとともに、これに関連する技術的諸問題の学習及び情報交換を行った。</p>				
講習会				
著書・報告書				
(単行本)「斜張橋の設計と施工」(九州大学出版会・昭61年6月)				

各種土木構造物・地盤の振動・耐震に関する研究分科会 (昭59～61年度)				
主査	堤一	構成委員数	産界	3名
副査	秋吉卓		官界	1名
幹事	烏野清		学界	16名
目的・活動内容				
<p>大型構造物の耐震研究上の基礎的課題であり、広範かつ永続的なものである。まず振動・騒音関係の調査・報告を行い、続いていろいろな状態の各種橋梁の振動特性・耐久性等について調査・研究を進めこの種の研究に有効な資料を供した。</p>				
講習会				
著書・報告書				
振動・騒音公害の規制とその実測例(昭61年3月)				

長大斜張橋の開発に関する分科会 (昭59～61年度)				
主査	大塚久哲	構成委員数	産界	3名
副査	水田洋司		官界	0名
幹事			学界	8名
目的・活動内容				
<p>経済的・合理的な長大斜張橋の開発を目的とし、具体的には、現在架設されている自己定着式斜張橋と吊橋の一般的定着方式である完定式の中間的な性質を有する部分定着式斜張橋の力学的諸特性を解明し、その実現の可能性と問題点を探究した。本分科会の終了後は、新たに研究会を組織し、国際シンポジウム開催等の成果を挙げた。</p>				
講習会				
著書・報告書				
長大斜張橋の開発に関する研究報告書(昭62年4月)				

道路橋の限界状態設計法分科会 (昭59～60年度)				
主査	彦坂照	構成委員数	産界	10名
副査	崎元達郎		官界	3名
幹事	大塚久哲		学界	14名
目的・活動内容				
<p>許容応力度設計法に代わる限界状態設計法登場の背景、特長、メリットを正しく理解し、併せて構造物の安全性・信頼性の評価に関する最新の話題について研究・討議した。活動の成果報告書2冊(総計410頁)を刊行した。</p>				
講習会				
著書・報告書				
カナダ・オンタリオ州道路橋設計基準 1983年版 I 共通編・鋼橋編 II 同解説(昭60年3月)				

コンクリートの耐久性分科会 (昭59～60年度)				
主 査	大 和 竹 史	構 成 委 員 数	産 界	3 名
副 査	江 本 幸 雄		官 界	1 名
幹 事	添 田 政 司		学 界	9 名
目的・活動内容				
<p>本会の目的は、官産学の研究者が協力してコンクリートの耐凍害性、アルカリ骨材反応、塩害、温度応力等に関する調査研究を行い、コンクリートの耐久性向上に関する基礎資料を得ることである。</p>				
講習会				
温度応力計算のパソコンプログラム (昭61年3月)				
著書・報告書				
コンクリートの耐凍結融解性、アルカリ骨材反応性ならびに塩害等に関する総合研究 (昭61年3月)				

PIC・REC埋設型枠利用によるコンクリート構造物の早期劣化防止法に関する研究分科会 (昭61年度)				
主 査	出 光 隆	構 成 委 員 数	産 界	6 名
副 査	大 和 竹 史		官 界	3 名
幹 事	高 山 俊 一		学 界	12 名
目的・活動内容				
<p>PICやレジンコンクリート製の薄板を表面保護材兼用の埋設型枠として用いて、コンクリート構造物を、塩害や化学的侵食などの早期劣化から守る工法を確立する。そのために、同埋設型枠を用いた供試体を作製して、海岸・温泉地帯等の厳しい環境下で、長期暴露試験を開始した。</p>				
講習会				
著書・報告書				

Mianus River Bridge 落橋の原因を分析する分科会 (昭60～61年度)				
主 査	高 橋 和 雄	構 成 委 員 数	産 界	4 名
副 査	西 村 信 男		官 界	1 名
幹 事			学 界	5 名
目的・活動内容				
<p>州道Mianus Bridge落橋の資料を収集して、翻訳・検討するとともに、アメリカにおける橋梁建設上の課題の検討を行った。また、Abdel-Ghaffar, A. M. プリンストン大学教授をお招きして、アメリカの橋梁の現状および日米の協力の情報交換などを行った。なお、活動はメンバーの地域性を考慮して、長崎県の渡海橋の技術的課題についての勉強会を行った。</p>				
講習会				
著書・報告書				
州道95号ミアナス川橋の落橋事故の原因について (土木構造・材料論文集、第2号、昭62年1月)				

軽量盛土工法の開発と利用分科会 (昭61～62年度)				
主 査	後 藤 恵 之 輔	構 成 委 員 数	産 界	4 名
副 査	村 田 秀 一		官 界	2 名
幹 事	棚 橋 由 彦		学 界	4 名
目的・活動内容				
<p>軽量盛土工法は、盛土材料に発泡ポリスチレンなどの軽量材を用いることにより、軟弱地盤上に盛土を築造する工法である。本分科会では、この工法について軽量材や工法等の開発を行うとともに、利用上の問題点を検討してその解決を図ろうとした。</p>				
講習会				
軽量盛土工法講習会 (昭62年8月)				
著書・報告書				

複合構造に関する分科会 (昭61～62年度)				
主査	浜田純夫	構成委員数	産界	12名
副査	日野伸一		官界	3名
幹事	大塚久哲・高海克彦		学界	15名
目的・活動内容				
<p>2つの目的を持っていた。一つは当時作成された鋼構造物設計指針に基づき複合構造物の設計を試みた。もう一つは、複合構造に関する文献を整理し、文献データベースを作成した。文献は一般の論文の他、過去10年間の年次学術講演会も含めた。</p>				
講習会				
道路橋（鋼構造、複合構造）の限界状態設計法（昭63年5月）				
著書・報告書				
複合構造に関する調査研究報告書（昭63年3月）				

長年月供用されたコンクリート橋の耐力および耐久性に関する分科会 (昭61～62年度)				
主査	松下博通	構成委員数	産界	10名
副査	牧角龍憲		官界	2名
幹事	小嶺啓蔵		学界	12名
目的・活動内容				
<p>既存橋梁の解体時に取り出したコンクリート橋桁を試験体として、その劣化損傷の程度および橋桁そのものの載荷試験により、耐久性に関する資料収集と長年月経過後の耐力について検討することを目的として、2橋の実橋を対象に調査した。</p>				
講習会				
著書・報告書				
昭和32年施工のPC橋（筑穂橋）の載荷試験および耐久性調査（土木構造・材料論文集、第2号、昭62年1月）				

橋梁振動測定技術についての調査・研究分科会 (昭61～62年度)				
主査	平井一男	構成委員数	産界	3名
副査	岡林隆敏		官界	0名
幹事	松田浩		学界	7名
目的・活動内容				
<p>本分科会では次の項目の調査を行った。①過去10年間の道路橋振動測定技術の推移。②振動測定が必要になってきた分野。③新しい測定技術・振動制御。④健全性評価への振動の応用。これらの成果は、道路橋振動測定技術に関する文献集としてまとめた。</p>				
講習会				
著書・報告書				
道路橋振動測定技術に関する文献集（Ⅰ）（Ⅱ）（昭63年2月）				

新しい合成版構造の開発とその応用に関する分科会 (昭61～62年度)				
主査	大田俊昭	構成委員数	産界	29名
副査	後藤茂男		官界	8名
幹事	日野伸一		学界	10名
目的・活動内容				
<p>立体トラス型ジベルを有する合成版を、橋梁を中心とする土木構造物へ適用する場合の設計・施工上の問題点について、大学研究者と橋梁メーカーの実務技術者を中心に検討し、合理的な構造形態と設計法を究明することを目的としたものである。</p>				
講習会				
著書・報告書				
<ul style="list-style-type: none"> ○「TSC合成版を用いた橋梁の検討研究報告書～各種橋梁への適用～」（昭61年12月） ○「同上～V型タワーを有する斜張橋への適用～」（昭61年12月） ○「同上～単純合成I桁・単純合成箱桁の試設計～」（昭63年3月） ○「同上～連続合成箱桁への適用～」（昭63年3月） 				

道路橋の限界状態設計法分科会 (昭61～平元年度)				
主査	崎元達郎	構成委員数	産界	15名
副査	久保喜延		官界	2名
幹事	今井富士夫		学界	13名
目的・活動内容				
前半の2年間で、土木学会刊の「鋼構造設計指針」(第4次案)を研究し、指針の解釈と試設計を行い問題点を指摘した。後半の2年間で、分科会の試案を提案すると共に、桁構造について試設計を行い、現行設計法と比較検討を行った。				
講習会				
道路橋(鋼構造・複合構造)の限界状態設計法(昭63年5月)				
著書・報告書				
「鋼構造設計指針」に基づいた設計計算例とその考察(昭63年4月) 限界状態設計法による鋼桁橋の試設計とその考察(平3年3月)				

基礎の限界状態設計法分科会 (昭62～63年度)				
主査	大塚久哲	構成委員数	産界	8名
副査	川副嘉久		官界	6名
幹事	松井謙二		学界	3名
目的・活動内容				
基礎の限界状態設計法の確立のための調査と試設計を行った。調査した海外基準としては、ノルウェーの海洋構造物設計基準とカナダのオンタリオ州道路橋設計規程が主であり、比較設計は逆T型擁壁の直接基礎と杭基礎に対して行った。				
講習会				
基礎の設計法を考える講習会(平元年8月)				
著書・報告書				
基礎の限界状態設計法入門－外国規程の紹介と比較設計－(平元年8月)				

「PC橋梁の設計と施工」翻訳分科会 (昭62～平2年度)				
主査	中沢隆雄	構成委員数	産界	12名
副査	北之園宏		官界	8名
幹事	日野伸一		学界	5名
目的・活動内容				
ブロック工法によるPC橋の実例の紹介とともに、設計・施工・経済性評価・将来展望まで詳細に記述した著書“Construction and Design of Prestressed Concrete Segmental Bridges”を翻訳出版し、橋梁技術者の専門書として知識向上に役立てることを目的とする。				
講習会				
設計・施工技術者を対象とした省力化施工のためのコンクリート橋のブロック工法(平4年12月)				
著書・報告書				
「ブロック工法によるPC橋の設計と施工」(九州大学出版会・平4年7月)				

長大斜張橋の動特性に関する分科会 (昭62～63年度)				
主査	水田洋司	構成委員数	産界	3名
副査	内谷保		官界	1名
幹事			学界	7名
目的・活動内容				
主桁支持方式の異なる三種類の斜張橋の地震応答特性、走行車両応答特性を明らかにして最適な支持方式を提案し、架設・設計に役立てることを目的としている。数値計算・振動実験より得られる動特性の意見交換、建設予定地の見学会等を行った。				
講習会				
三県架橋予定地見学会(昭63年11月)				
著書・報告書				

土木構造物の耐震設計に関する分科会 (昭63～平元年度)				
主査	秋吉卓	構成委員数	産界	0名
副査	高西照彦		官界	0名
幹事	烏野清		学界	16名
目的・活動内容				
九州・山口地域の新しいタイプの土木構造物の耐震設計について研究することを目的とする。初年度は斜張橋荒津大橋の振動実験より新しい制振装置の効果を、次年度は一般土木構造物の土・水との相互作用を考慮した耐震設計法をまとめている。				
講習会				
著書・報告書				
① 荒津大橋の振動試験結果 (平元年3月) ② 橋梁・地盤・水・土木構造物の動特性 (平2年3月)				

TSC合成版構造の開発に関する研究分科会 (昭63～平元年度)				
主査	太田俊昭	構成委員数	産界	27名
副査	浜田純夫		官界	6名
幹事	日野伸一		学界	9名
目的・活動内容				
本分科会は、「新しい合成版構造の開発とその応用に関する分科会」の続編として組織されたもので、TSC合成版を合成I桁橋として実用化する上での設計・製作・架設に関する具体的検討が行われ、その成果として現在までにこの種の実橋2橋が施工されている。				
講習会				
著書・報告書				
○「TSC合成版を用いた橋梁の検討研究報告書～TSC合成床版設計要領(案)ほか」(平元年3月) ○「同上～TSC鋼板の座屈耐力～」(平元年3月) ○「TSC合成版を用いた合成桁橋の設計・製作に関する研究報告書」(平2年3月)				

AE計測法の土木工学への応用に関する分科会 (昭63～平2年度)				
主査	大津政康	構成委員数	産界	8名
副査	牧角龍憲		官界	0名
幹事			学界	14名
目的・活動内容				
土木構造物の維持・管理に関する関心が高まり、診断・検査・評価手法が検討されている。そこで、ひびわれ検査手法としてのAE計測法の土木工学全般への応用例の調査と新たな適用分野の開発を目的として研究活動を行った。なお、著書・報告書の欄に示すとおり、土木のAEに関する国際会議を開催した。				
講習会				
著書・報告書				
① 土木工学におけるAE計測法の適用例に関する研究報告 (平2年3月) ② Book of Abstracts : International Joint Meeting, 1st Workshop on AE in Civil Engineering and 2nd Workshop on AE and Rock Fracture Mechanics, 1990				

九州地区の地盤と構造物の動特性に関する分科会 (平2～4年度)				
主査	秋吉卓	構成委員数	産界	1名
副査	高西照彦		官界	0名
幹事	烏野清		学界	17名
目的・活動内容				
九州・山口地域の沖積層地盤の地震時動特性、とくに液状化についての研究を目的とする。そのため、地盤データベース及び全応力による地盤振動解析のための汎用プログラムを開発し、これらを研究者・実務設計者に公開して成果の還元をはかる。				
講習会				
九州・山口地域の地盤振動特性について (平5年7月)				
著書・報告書				
九州・山口地域の地盤振動特性 (平5年3月)				

道路橋の健全度診断と補修に関する分科会 (平2～3年度)				
主査	崎元達郎	構成委員数	産界	21名
副査	城秀夫		官界	3名
幹事	今井富士夫		学界	10名
目的・活動内容				
道路橋の健全度診断と補修に関するエキスパート情報が十分に整理されて提供されていないので、各種文献より抽出したエキスパート情報を1ページの調査表にまとめ、6つのテーマと7つの項目に分類・整理した文書型データベースを作成・刊行した。				
講習会				
道路橋の健全度診断と補修に関するエキスパート情報の整理と分析(平4年5月)				
著書・報告書				
道路橋の健全度診断と補修に関するエキスパート情報の分類と整理(平4年4月)				

長年月供用されたコンクリート橋の耐久性調査方法に関する分科会 (平2～5年度)				
主査	松下博通	構成委員数	産界	15名
副査	牧角龍憲		官界	4名
幹事	小嶺啓蔵		学界	10名
目的・活動内容				
長年月供用されたコンクリート老朽橋の材料的、構造の各種性状についてのデータを蓄積し、耐久性設計や余寿命診断に対する調査方法の確立と調査業務の普及を目的として、50～60年供用されたRC橋2橋(福岡県、宮崎県)について調査検討した。				
講習会				
著書・報告書				

ハイテク繊維の建設材料への適用に関する分科会 (平2～3年度)				
主査	阪本好史	構成委員数	産界	22名
副査	出光隆		官界	6名
幹事	牧角龍憲		学界	11名
目的・活動内容				
炭素繊維などの新素材繊維の建設材料への利用について、基本的物性や経済性等をふまえて適用構造を具体的に絞って調査検討する。メーカー、ゼネコン、大学等各分野から講師を招いて検討会を中心に活動を行う。				
講習会				
著書・報告書				

生活・産業廃棄物の有効利用に関する分科会 (平2～3年度)				
主査	後藤恵之輔	構成委員数	産界	3名
副査	棚橋由彦		官界	0名
幹事	武政剛弘		学界	5名
目的・活動内容				
生活廃棄物として空き缶、産業廃棄物として石炭灰を取り上げ、これらの軽量性や高強度性、自硬性などに着目し、建設用資材としての有効利用を目的として、物理、力学特性等の基礎的性質を確認するとともに、盛土材としての適用について検討を行った。空き缶を用いて道路を造ろうとする研究は、空き缶のポイ捨て公害、資源の再利用の面から注目され、文春文庫「読むクスリ」No.11に紹介された。				
講習会				
著書・報告書				

土木構造物の維持・管理のためのAE計測法のコード化に関する分科会 (平3~4年度)				
主査	大津政康	構成委員数	産界	13名
副査	村上祐治		官界	1名
幹事			学界	13名
目的・活動内容				
土木構造物において維持・管理への要請が高まりつつあり、実用的な検査・診断手法の確立が急がれている。そこで、ひびわれ検査手法としてのAE計測法のコード化について調査・研究活動を実施することを目的としている。なお、平成4年10月に福岡サンパレスで開催された国際会議：11th International AE Symposiumを協賛した。				
講習会				
土木工学へのAE計測の応用に関する講習会 (平4年9月)				
著書・報告書				
土木工学へのAE計測の応用に関する講習会テキスト (平4年9月)				

地下埋設コンクリート物の耐久性向上に関する分科会 (平3~4年度)				
主査	大和竹史	構成委員数	産界	20名
副査	山崎竹博		官界	6名
幹事	添田政司		学界	15名
目的・活動内容				
主に地下埋設コンクリート構造物を対象にして、腐食因子を含む下水、温泉水、ボタ浸透水、酸性雨および酸性土壌に接触する構造物の腐食機構の解明、劣化診断、防食工法、設計法などに関する調査研究を目的とする。				
講習会				
講習会				
著書・報告書				
KABSE地下埋設コンクリート構造物の耐久性向上分科会報告(平5年5月)				

橋梁の歴史的評価と保存・再生に関する分科会 (平3~4年度)				
主査	小林一郎・山尾敏孝	構成委員数	産界	11名
副査	樋渡則章		官界	2名
幹事	加藤雅史		学界	14名
目的・活動内容				
著名な橋梁の保存と再生の既往の国内外の事例について調査し、評価方法や保存・再生の問題点を検討した。又九州各県の道路橋を実態調査し、その特徴を調べた。さらに、分科会が九州内の著名橋(道路橋、鉄道橋、石橋)のリストを作成し、表にしてまとめた。				
講習会				
講習会				
著書・報告書				
橋梁の保存・再生事例と九州の著名橋(平5年4月)				

高耐久性埋設型枠の利用に関する研究分科会 (平3年度)				
主査	出光隆	構成委員数	産界	16名
副査	大和竹史		官界	3名
幹事	高山俊一		学界	16名
目的・活動内容				
昭和61年度に実施した埋設型枠合成供試体の荷重試験結果などを基に、埋設型枠合成部材の設計法・施工法を検討した。軸力を受ける部材については殆ど問題は解決したが、曲げ部材については最適目地間隔の計算法が今後の検討課題として残った。				
講習会				
講習会				
技術発表会(平4年11月)				
著書・報告書				
高耐久性埋設型枠工法(平5年8月)				

鋼管矢板井筒基礎の耐震設計に関する分科会 (平3~4年度)				
主査	烏野清	構成委員数	産界	18名
副査	村田進		官界	6名
幹事	麻生稔彦		学界	6名
目的・活動内容				
<p>鋼管矢板井筒基礎は斜張橋主塔基礎等にも用いられ、大型化していることから従来の設計法だけでは対応できない。本分科会は製造・設計・施工・研究を行っている者が問題点を検討し、今後の設計資料等を収集することを目的としたものである。</p>				
講習会				
著書・報告書				
鋼管矢板井筒基礎の設計・施工 (平5年5月)				

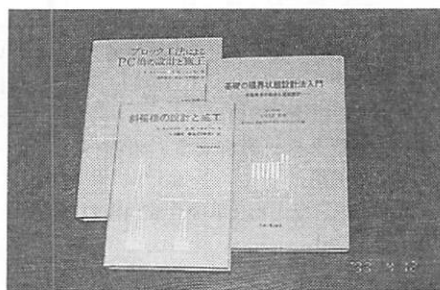
道路橋の健全度診断と補修に関する研究分科会 (平4年度~)				
主査	今井富士夫	構成委員数	産界	18名
副査	城秀夫		官界	2名
幹事			学界	10名
目的・活動内容				
<p>本分科会は道路橋の健全度診断の具体化を図るもので、その耐用性に対する官庁系の診断規準の整理と適用されている非破壊検査法を検索する。さらに、使用されている試験機器の実績などの資料を収集し、その有用性について検討する。</p>				
講習会				
著書・報告書				

橋梁架設工法の安全性に関する研究分科会 (平4年度~)				
主査	久保喜延	構成委員数	産界	15名
副査	日野伸一		官界	8名
幹事	安部邦弘		学界	9名
目的・活動内容				
<p>橋梁の架設事故が報告されており、これに対してその原因等を検討するために、産官学が一体となって議論をしている。分科会を3ヶ月毎に行い、分科会の前半では、各界から1名ずつの講演をお願いし、現状の報告及び分析を行っている。</p>				
講習会				
著書・報告書				

繊維補強材のコンクリート構造物への応用分野に関する研究分科会 (平4年度~)				
主査	阪本好史	構成委員数	産界	20名
副査	久野公德		官界	6名
幹事	牧角龍憲		学界	10名
目的・活動内容				
<p>繊維補強材の特性を活用できるコンクリート構造物を選定し、フィージビリティスタディならびに試験施工を実施して新しいコンクリート構造の可能性を検討する。設計手法、材料特性評価方法、経済性評価などについても体系だった検討を行う。</p>				
講習会				
著書・報告書				

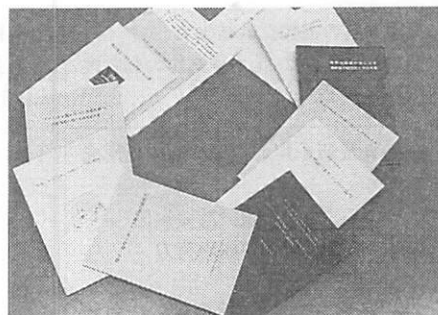
VI 出版物一覧

〔著書〕



著書名	著者名または監修者名	担当分科会名	出版社名・発行年月	体裁・ページ	価格
斜張橋の設計と施工	太田 俊昭 川井 優	斜張橋の設計と施工翻訳分科会	九州大学出版会 1986年6月	A5 336ページ	5000円 (特価4000円)
基礎の限界状態設計法入門 外国規準の紹介と比較設計	大塚 久哲	基礎の限界状態設計法分科会	九州大学出版会 1989年8月	B5 150ページ	3000円 (特価2400円)
ブロック工法によるPC橋の設計と施工	太田 俊昭 辻 勝成	ブロック工法によるPC橋の設計と施工翻訳分科会	九州大学出版会 1992年7月	B5 510ページ	15000円 (特価12000円)

〔報告書〕



報告書名	担当分科会名	発行年月	体裁・ページ
カナダ・オンタリオ州道路橋設計規準(1983年版) I. 共通編・鋼橋編、II. 同解説	道路橋の限界状態設計法分科会 (主査 彦坂熙)	昭和60年3月	(I) B5・243ページ (II) B5・141ページ
振動・騒音公害の規制とその実測例 橋梁・地盤・土木構造物の動特性	各種土木構造物・地盤の振動・耐震に関する研究分科会 (主査 堤一)	昭和61年3月 昭和63年3月	B5・20ページ B5・97ページ
コンクリートの耐凍結融解性、アルカリ骨材反応性ならびに塩害等に関する総合研究	コンクリートの耐久性分科会 (主査 大和竹史)	昭和61年3月	B5・96ページ

報告書名	担当分科会名	発行年月	体裁・ページ
TSC合成版を用いた橋梁の検討研究報告書 (Ⅰ) 各種橋梁への適用 (Ⅱ) V型タワーを有する斜張橋への適用 (Ⅲ) 単純合成I桁・単純合成箱桁の試設計 (Ⅳ) 連続合成箱桁への適用	新しい合成版構造の開発とその応用に関する分科会 (主査 太田俊昭)	昭和61年12月 昭和61年12月 昭和63年3月 昭和63年3月	A4・504ページ A4・378ページ A4・142ページ A4・25ページ
長大斜張橋の開発に関する研究報告書	長大斜張橋の開発に関する分科会 (主査 大塚久哲)	昭和62年4月	B5・147ページ
複合構造に関する調査研究報告書	複合構造に関する分科会 (主査 浜田純夫)	昭和63年3月	B5・142ページ
道路橋振動測定技術に関する文献集 (Ⅰ) (Ⅱ)	橋梁振動測定技術についての調査・研究分科会 (主査 平井一男)	昭和63年2月	(Ⅰ) A4・567ページ (Ⅱ) A4・571ページ
「鋼構造物設計指針」に基づいた設計計算例とその考察 限界状態設計法による鋼桁橋の試設計とその考察	道路橋の限界状態設計法分科会 (主査 崎元達郎)	昭和63年4月 平成3年3月	B5・240ページ B5・252ページ
荒津大橋の振動試験結果 橋梁・地盤・水・土木構造物の動特性	土木構造物の耐震設計に関する分科会 (主査 秋吉 卓)	平成元年3月 平成2年3月	B5・99ページ B5・107ページ
TSC合成版を用いた橋梁の検討研究報告書 (Ⅰ) TSC合成床版設計要領他 (Ⅱ) TSC鋼板の座屈耐力 TSC合成版を用いた合成桁橋の設計・製作に関する研究報告書	TSC合成版構造の開発に関する研究分科会 (主査 太田俊昭)	平成元年3月 平成元年3月 平成2年3月	A4・72ページ A4・94ページ A4・262ページ
土木工学におけるAE計測法の適用例に関する研究報告 Book of Abstracts : International Joint Meeting, 1st Workshop on AB in Civil Engineering and 2nd Workshop on AB and Rock Fracture Mechanics	AE計測法の土木工学への応用に関する分科会 (主査 大津政康)	平成2年3月 平成2年10月	B5・146ページ A4・71ページ
橋梁の健全度診断と維持管理講習会テキスト 道路橋の健全度診断と補修に関するエキスパート情報の分類と整理	道路橋の健全度診断と補修に関する分科会 (主査 崎元達郎)	平成2年11月 平成4年4月	B5・82ページ

報告書名	担当分科会名	発行年月	体裁・ページ
土木工学へのAE計測の応用に関する講習会テキスト	土木構造物の維持・管理のためのAE計測法のコード化に関する分科会 (主査 大津 政康)	平成4年9月	B5・112ページ
九州・山口地域の地盤振動特性	九州地区の地盤と構造物の動特性に関する分科会 (主査 秋吉 卓)	平成5年3月	B5・166ページ
橋梁の保存・再生事例と九州の著名橋	橋梁の歴史的評価と保存・再生に関する分科会 (主査 小林一郎・山尾敏孝)	平成5年4月	A4・218ページ
地下埋設コンクリート構造物の耐久性向上分科会報告	地下埋設コンクリート構造物の耐久性向上に関する分科会 (主査 大和竹史)	平成5年5月	A4・203ページ
鋼管矢板井筒基礎の設計・施工	鋼管矢板井筒基礎の耐震設計に関する分科会 (主査 鳥野 清)	平成5年5月	B5・110ページ

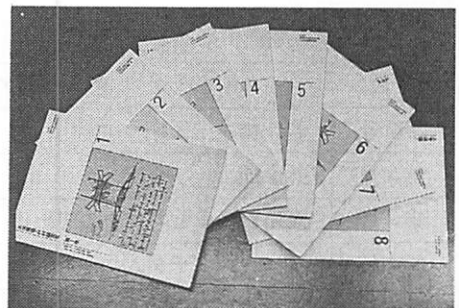


〔会報〕

創刊号(1984年)～第10号(1993年)

〔土木構造・材料論文集〕

第1号(1986年)～第8号(1992年)



VII 会報総目次

創刊号 (1983) ~ 第10号 (1993)

〔巻頭言〕

号数	筆 者	
第1号	KABSE 会長 (九州大学工学部教授)	小 坪 清 真
第2号	建設省九州地方建設局長	陣 内 孝 雄
第3号	運輸省第四港湾建設局長	中 村 龍 二
第4号	日本道路公団福岡建設局長	杉 田 美 昭
第5号	日本橋梁建設協会専務理事	西 山 徹
第6号	プレストレストコンクリート建設業協会九州支部長	山 崎 剛 秋
第7号	KABSE 会長 (熊本大学工学部教授)	三 池 亮 次
第8号	日本土木工業協会九州支部長	内 野 武 彦
第9号	KABSE 会長 (九州工業大学工学部教授)	渡 辺 明
第10号	建設コンサルタンツ協会九州支部長	青 木 謙 三

〔エッセー〕

号数	テ ー マ	筆 者
第1号	長寿茶碗のご利益	延岡市在住 大神ハズエ
第2号	切手は小窓、心の小窓	パシフィックコンサルタント(株) 宮越 堯
第3号	私のハレー彗星観測記	藤永地建(株) 松本 直弥
第4号	私の中のレオナルド・ダ・ビンチ像	新日本製鉄(株)第三技術研究所 長尾 由一
第5号	橋にはドラマがある	作家 田村 喜子
第6号	俳句で綴る川走川橋架設工事報告	日本ビー・シーテー建設(株)会長 大神 龍馬
第7号	女性シビルエンジニアとして	福岡県柳川土木事務所 本田 顕子
第8号	問われている内部変革	KABSE 会長 渡辺 明
第9号	現場から	日本国土開発(株) 遠藤 典雅
第10号	日本都市への思い入れ	ロンドリーナ集大学准教授 Humberto Yamaki

〔思い出の工事〕

号数	工 事 名	筆 者
第2号	若戸橋	日本鋼管(株)顧問 川崎偉志夫
第3号	外津橋	京都府道路建設課長 宮崎雄二郎
第4号	九州自動車と特殊土の思い出	東関東道路エンジニア(株)社長 持永龍一郎
第5号	一ツ瀬アーチダム	西日本技術開発(株)社長 青木 謙三
第6号	関門橋	(株)日本構造橋梁研究所社長 乙藤 憲一
第7号	関門国道トンネル	(株)橋梁コンサルタント社長 住友 彰

第8号	西海橋	横河工事(株)取締役相談役	池田 肇
第9号	天草五橋	(株)安部工業所顧問	栗原 利栄
第10号	松原・下釜ダム付帯橋梁建設工事	松尾建設(株)専務	副島 健

〔展 望〕

号数	テ	マ	筆	者
第3号	九州の電力需要動向と供給計画		九州電力(株)土木部水力開発課	衣非 安章
第4号	わが国の航空輸送と空港整備		(株)日本空港コンサルタンツ	木戸 武
第5号	“九州は一つ” から “九州を一つ” へ		福岡大学工学部	吉田 信夫
第6号	九州・山口の港湾整備		運輸省第四港湾建設局企画課	藤田 武彦
第7号	九州の鉄道の現状と今後の整備計画について		九州旅客鉄道(株)施設部	八尋 繁美
第8号	新しい都市開発：テレポート構想		福岡市総務局企画調整部	副島 一則
第9号	東九州地域の中核都市を目指して		延岡市長	早生 隆彦
第10号	九州の高速道路網の充実を目指して		建設省道路局企画課	大井健一郎

〔海外レポート〕

号数	テ	マ	筆	者
第3号	台湾土木教育事情		九州大学工学部	大塚 久哲
第4号	ヨーロッパを視察して		福岡北九州高速道路公社計画課	村山 隆之
第5号	西ドイツ・オーストリアの工科大学に滞在して		九州大学工学部	彦坂 熙
第6号	北米3ヶ国を視察して		三井建設(株)	坂口 修
第7号	近隣アジア諸国の土木事情		五洋建設(株)	田中 一政
第8号	タンザニアからの便り		国際協力事業団(福岡市)	万代 幸二
第9号	ノース・カロライナ生活体験記		九州大学工学部	日野 伸一
第10号	オーストラリア見聞記		福岡市土木局	藤井 利治

〔トピックス〕

号数	テ	マ
第6号	アジア太平洋博覧会ガイドウェイバス	
第7号	宇宙テーマパーク「スペースワールド」	
第8号	グリーンルネッサンス北九州'91開幕、平成2年7月の九州北部の豪雨災害 動きだした博多湾ウォーターフロント！、関門国道トンネル2億台突破	
第9号	雲仙普賢岳活動続く、1000年の時を刻む“ハウステンボス”誕生 旧長六橋保存のための解体終わる	
第10号	日本初「開閉屋根を有する福岡ドーム」、加久藤パイロットトンネル貫通する 紫川マイタウンマイリバー整備計画、国際海浜コンベンションリゾート「シーガイア」 地下鉄空港線の開通	

VII 土木構造・材料論文集総目次

第1号(1986)～第8号(1992)

招待論文	号	頁
・橋梁上部構造の振動減衰	伊藤 学	1 - 3
・コンクリート構造物の安全性と設計耐用年数の考え方	渡辺 明	2 - 1
・タコマ橋崩壊の流体力学的考察	中村泰治	3 - 1
・アルカリ骨材反応の歴史的背景と研究の趨勢	西林新蔵	4 - 1
・数値解析に基づくプレートガードのせん断耐荷力の評価	倉西 茂	5 - 1
・関東と九州の地震災害とその対策	堤 一	6 - 1
・わが国土木分野における最近の衝撃問題	石川信隆	7 - 1
・構造設計と最適化	山田善一	8 - 1
技術展望		
・建設技術研究開発の動向	陣内孝雄	1 - 9
・九州山口地域の長期的港湾整備の方向と技術的展望	中村龍二	1 - 11
・廃棄物最終処分場の動向について	中原久智	2 - 7
・橋梁技術の現状と展望	八尋勇次	2 - 11
・浮上式鉄道開発の現状と展望	村田清満	3 - 7
・海洋構造物の建造技術の現状と展望	川本正規	3 - 15
・宇宙の無重量環境を利用した新材料の創製	菊山紀彦	4 - 11
・地熱開発の現状と将来開発	江原幸男	4 - 19
・「大震度地下開発」について(ゆとりある快適な大震度地下開発)	横田高良	5 - 9
・高速道路における盛土工技術の変遷と今後の課題	瀬在 武	5 - 15
・超流動コンクリートの開発の現状と展望	松岡康訓	6 - 7
・リモートセンシングと土木工学	後藤恵之輔	6 - 19
・下水道処理施設コンクリート構造物の劣化と防食対策	松下博通	7 - 11
・土木工学における定量的非破壊評価	岸野佑次	8 - 9
・コンクリート構造物中の鋼材の電気防食	峰松敏和	8 - 17
講演論文		
・天山揚水発電所の工事について	藤本順一	1 - 17
・海洋温度差発電の開発の現状と展望	上原春男	2 - 17
・橋梁のタイプ選定について(天草五橋を中心として)	吉村虎蔵	2 - 23
・橋梁技術の今昔	篠原洋司	2 - 29
・道路整備の効果	瀬戸口忠臣	2 - 35
・天草五橋の技術的成果とその後の位置づけ	中島英治	2 - 39
・本州四国連絡橋の技術開発とその波及効果	神 弘夫	4 - 27
・新しいウォーターフロントの姿	西島浩之	5 - 23
・明日の技術に挑む土木研究所	岩崎敏男	6 - 25
・福岡空港ターミナル地域拡充整備計画	村田 進	7 - 19
・日本道路公団における橋梁の歩みと現況	古賀文俊	8 - 31

論文・報告

・荒津大橋上部工の設計	椰野利治、田中 伝、井上朝登 藤田敏夫、吉崎信之、田中千秋 関川竜二、加地健一、吉村 健	1 - 21
・U形鋼矢板壁の継手せん断抵抗と断面性能に関する解析的研究	白石基雄	1 - 37
・アスファルト舗装の動的オーバーレイ解析に関する一考察	横田 漠、藤本 廣	1 - 49
・上路式鋼アーチ系橋梁の面外座屈耐力	崎元達郎、山尾敏孝、植田堅朗 岡本剛治	1 - 61
・新たな構造形式の防波堤の開発動向について	口田 登	1 - 69
・補剛トラス橋梁断面の部材配置による耐風制振について	加藤九州男、久保喜延	1 - 77
・碎石粉の混合細骨材への有効利用	天野一彦、出光 隆、高山俊一	1 - 85
・九州横断自動車道別府橋の計画について	坂手道明	1 - 93
・豊後橋（PC斜張橋）の振動特性の実測と理論的考察	小坪清真、烏野 清、高西照彦 園田敏矢、小深田信昭、西本博明	1 - 101
・志賀島橋の塩害調査報告	大和竹史、真次 寛、小深田信昭	1 - 109
・初期材令におけるコンクリートの強度の相関について	松下博通、牧角龍憲、郡山貢一	1 - 117
・高強度コンクリートの耐凍害性	大和竹史、江本幸雄、添田政司	2 - 45
・地盤-基礎構造物系の動的特性の評価	河野健二、吉原 進	2 - 53
・模型コンクリート圧送装置の試作とボンバビリチー試験に関する研究	高山俊一、出光 隆 坂本好史	2 - 59
・立体トラス型ジベルの力学特性と道路橋床版への適用	太田俊昭、日野伸一、北之園宏 富沢三郎、今井富士夫	2 - 67
・質量付加式吊橋の特性に関する研究	野村国勝、中崎俊三、前田研一 米田昌弘	2 - 77
・番の州高架橋の設計・製作について	尾幡岩美、瀬下次朗、河野 巖 久保武巳	2 - 87
・マイクロコンピューターを用いた斜張橋の多段階最適設計	小林一郎、宮本宏一、三池亮次	2 - 95
・らせん繊維で補強したモルタルのじん性	太田俊昭、牧角龍憲、野瀬孝行 水田宗昭、白石基雄	2 - 103
・昭和32年施工のPC橋（筑穂橋）の載荷試験および耐久性調査	松下博通、牧角龍憲 宇留島素之、水田権作、藤本良雄	2 - 109
・高力ボルトの緊張力で合成した鋼・プレキャストコンクリート合成桁の曲げ性状	山崎竹博 出光 隆、宮川邦彦、村上忠彦 渡辺 明	2 - 119
・荒津大橋の塔の耐風安定性について	井上朝登、古崎信之、田中千秋 藤田敏夫、加地健一、武藤賢司 阿比留久徳、吉村 健	2 - 127
・州道95号ミアナス川橋の落橋事故の原因について	高橋和雄、西村信男、益田秀樹	2 - 139
・桁尻にダンパーを持つ上路式ランガー橋の振動特性について	水田洋司	3 - 25
・側方流動防止に関する模型実験	脇村秋信、石堂 稔、吉長健二	3 - 33
・養生条件がコンクリートの圧縮強度発現に及ぼす影響	中沢隆雄、吉田紘久、広瀬一憲 菊村忠由	3 - 41
・吊床版橋の振動特性に関する一実験結果	堤 一、中沢隆雄	3 - 49
・RC高橋脚の非線形挙動に関する基礎的研究	太田俊昭、大塚久哲、高橋信夫 今井富士夫、金光 宏	3 - 55

- ・ 道路盛土基礎地盤の変形挙動解析 荻迫栄治、西崎晶士、出羽克之
齊藤一郎 3 - 63
- ・ 部分定着式斜張橋の開発に関する研究 大塚久哲、水田洋司、内谷 保
小林一郎 3 - 71
- ・ 長大箱桁橋の減衰特性の一考察 永井康平、江草 拓、佐々木伸幸 3 - 79
- ・ 鋼橋の脆性破壊防止への破壊力学手法の適用法について 江草 拓、梶本勝也、氏原隆澄
尾崎忠男 3 - 89
- ・ 約50年経過したコンクリートアーチ橋の耐久性調査 坂田康德、大津政康、村田高生
安達文博 3 - 97
- ・ 道路橋の衝撃加振試験による動特性推定 岡林隆敏、原 忠彦、太田俊昭
森 寛昭 3 - 107
- ・ 静的荷重を受ける鋼・コンクリート合成部材の弾塑性曲げに関する実験的研究 高橋芳彦
太田俊昭、内田 孝、石川信隆
日野伸一 4 - 39
- ・ 直列二本円柱の空力弾性挙動と振動抑制に関する一考察 久保喜延、加藤九州男、金尾 稔 4 - 49
- ・ 切り欠きを持つ梁の固有値特性について 水田洋司、平井一男、内山義博 4 - 55
- ・ 多点移動繰り返し荷重試験によるRC床版劣化度評価指標に関する一考察 湯治秀郎
川井 豊、中村聖三、大津政康
崎元達郎 4 - 61
- ・ アコースティック・エミッションの波形解析によるアンカーボルト引き抜き試験の観察
..... 重石光宏、大津政康 4 - 69
- ・ TSC合成床版の静的曲げ性状と接合面塗装の影響 太田俊昭、日野伸一、興石正巳
藤尾保幸、今金真一 4 - 79
- ・ 高強度コンクリートのボンバビリチーとコンシステンシーメータ 高山俊一、出光 隆
坂田康二、宮崎 太、永井 篤 4 - 89
- ・ 建築におけるPC合成床版の応用例 園田弘毅、田中恭哉、浅田正子 4 - 97
- ・ しらすのコンクリート用骨材への有効利用に関する研究 武若耕司、松本 進、川俣孝治 4 - 103
- ・ 親しみとうるおいのある道づくり（川越街道の歴史的景観を求めて） 高田秀胤、一川宏也
小山田吉孝、山口健一 5 - 33
- ・ 等価係数による液状化地盤中管路の復元力特性の評価 秋吉 卓、淵田邦彦、松本英敏 5 - 39
- ・ 若戸大橋メインケーブルの現況 石井孝男、岩井文明、木村秀夫
大友弘志 5 - 47
- ・ ケーブル構造の大変形解析への最適化手法の適用 小林一郎、三池亮次 5 - 57
- ・ クレーンガーダーのトラス置換による挙動解析 山尾敏孝、崎元達郎、椎原賢次
河野勝仁、川井 豊 5 - 69
- ・ 熱赤外線リモートセンシングによる法面空洞調査手法に関する基礎実験 一川宏也、秋本隆彦
後藤恵之輔、長谷川秀人 5 - 77
- ・ コンクリート構造物の施工時に発生するひびわれのAE計測 石橋哲夫、木村定雄、弘中義昭
足立一郎 5 - 87
- ・ AEカイザー効果を利用した初期地圧の推定法に関する基礎的研究 石橋孝治 5 - 95
- ・ 振動下でRCはり下面打継ぎする場合の一体性に関する研究 高山俊一、出光 隆
渡辺 明、文野結紀 5 - 105
- ・ 若戸大橋拡幅工事（若松側）の取付第1径間の施工報告 岩井文明、瀬下次朗、井上高則
久保武巳 5 - 115

・コンクリート補強材としての炭素繊維ネットの引っ張り性状に及ぼす織込み方法の影響	南 英明、太田俊昭、牧角龍憲 岡田慎一、赤嶺雄一	5 - 123
・地温分布の数理解析による街路樹の維持・管理への工学的アプローチ	武政剛弘、園田裕虎 松原 茂、後藤恵之輔	5 - 135
・強制振動をうける液体貯槽内溶液に対する等価振動系	小坪清真、高西照彦、多田 浩	6 - 33
・1987年台風12号による平戸大橋の被害と解析	高橋和雄、犬東洋志	6 - 41
・補剛アーチ橋の構成部材の衝撃係数に関する一考察	内谷 保、彦坂 熙	6 - 51
・鋼-コンクリート合成版構造のプレストレス化に関する基礎的研究	太田俊昭、日野伸一 (その1:合成はりの導入プレストレスと曲げ性状) 加治英希、星隈順一	6 - 59
・高炉スラグ微粉末を混入したPC用コンクリートのクリープ特性	千々岩浩巳、安部邦弘、山口秀毅 出光 隆、高山俊一 宮辺 和、沼田晋一、近田孝夫	6 - 69
・1990年7月豪雨による石倉木場地すべりの概要と動態	棚橋由彦、三浦国春、杉山和一 後藤恵之輔	6 - 77
・外国基準にみる基礎の限界状態設計の考え方	大塚久哲、川副嘉久、松井謙二 久賀富美男	6 - 87
・構造最適化研究の最近の動向について	小林一郎	6 - 93
・小口径短杭の横抵抗に関する研究	新納 格、小松広和、栗林栄一 都築富夫	7 - 27
・Griffith の破壊理論と転位論の統合	福島啓一	7 - 35
・部分修正された振動系の固有値計算法について	片山拓朗、水田洋司、平井一男	7 - 45
・無補剛吊り水管橋の動的応答特性	水田洋司、湯治秀郎、川井 豊	7 - 55
・偏載荷重を受ける鉄筋コンクリート張出式橋脚の節点部補強に関する模型実験	彦坂 熙 佐竹正行、松下博通、JohnBOLANDER Jr.	7 - 63
・セメントペーストの流動性状に及ぼす高炉スラグ微粉末および混和剤の影響	近田孝夫 松下博通、前田悦考	7 - 71
・海砂を使用したダムコンクリートの微粉分対策	藤本泰久、平田久則、辻子雅則 渋谷 達、松本雄介、松下博通	7 - 83
・石灰灰の基礎的研究と建設材料としての有効利用	棚橋由彦、後藤恵之輔、宮川英也	7 - 91
・長崎県諫早干拓地の地下水シミュレーションと広域地盤沈下予測	棚橋由彦、後藤恵之輔 武政剛弘、藤田道浩	7 - 99
・上海市に於ける震災時の避難危険度評価	新納 格、栗林栄一、飯吉勝巳	8 - 41
・サンドコンパクション工法による地盤剛性改良の動的評価について	秋吉 卓、淵田邦彦 松本英敏、兵頭武志、方 火浪	8 - 51
・熊本地域における液状化予測と過去の液状化履歴との対応	秋吉 卓、淵田邦彦、宮崎雅徳 松本英敏、兵頭武志、方 火浪	8 - 61
・軟弱粘土の厚密度と非排水強度の関係	松尾雄治、石堂 稔	8 - 69
・締固めた中間土の力学的特性	吉村優治、小川正二	8 - 77
・長崎県の離島架橋の歩みと技術的課題	高橋和雄、犬東洋志、渡部丈夫	8 - 85
・鉄筋コンクリート張出し式橋脚の偏載荷重による破壊挙動の二次元FEM解析	彦坂 熙 佐竹正行、松下博通、JohnBOLANDER Jr.	8 - 93
・老朽化RC構造物の損傷実態と剛性低下について	今井富士夫、中沢隆雄、横田 漢 枝元宏彰、鳥野 清	8 - 105

会則・分科会規定



KABSE

KYUSHU ASSOCIATION FOR
BRIDGE AND STRUCTURAL
ENGINEERING

九州橋梁・構造工学研究会

九州橋梁・構造工学研究会会則

第 1 章 総 則

(名 称)

第 1 条 この会は、九州橋梁・構造工学研究会(以下、「本会」という)と称する。

(所在地)

第 2 条 本会は、事務局を福岡市内に置く。

第 2 章 目的および事業

(目 的)

第 3 条 本会は、土木構造全般に関する諸問題を会員の専門もしくは職場にとらわれず、自由な立場で討議し、調査・研究・開発に参加あるいは協力することにより、会員相互の技術知識の向上と親睦を図り、土木工学の発展に寄与することを目的とする。

(事 業)

第 4 条 本会は、前条の目的を達成するため、下記の事業を行う。

- (1) 土木構造全般に関する各種調査研究
- (2) 講演会、講習会、見学会の開催
- (3) 土木構造全般に関する試験・指導の受託および意見具申
- (4) 会報その他刊行物の発行
- (5) そのほか、本会の目的達成に必要な事業

第 3 章 会 員

(会員の種別)

第 5 条 本会の会員は、次の3種とする。

- (1) 正会員(第1種) : 本会の各種事業の主体となって活動する者。
- (2) 正会員(第2種) : 本会の目的および事業に賛同し、本会を援助する団体に属する本会に対する代表者。
- (3) 特別会員 : 本会の活動を支持する者で、本会の事業遂行の必要上理事会において推薦、承認された者。

(正会員の入退会および義務)

第 6 条 正会員になるには、入会届を提出して会長の承認を経なければならない。

2. 正会員は、第 15 条に定める会費を納めなければならない。
3. 正会員で退会しようとする者は、前項の義務を完了した後、退会届を提出しなければならない。

第 4 章 役員、顧問および相談役

(役員の種類)

第 7 条 本会に次の役員を置く。

- | | |
|---------|-----|
| (1) 会 長 | 1 名 |
| (2) 副会長 | 1 名 |
| (3) 理 事 | 若干名 |
| (4) 監 事 | 2 名 |

(役員を選出)

第 8 条 理事および監事は、会員の中から総会において選出する。

2. 会長および副会長は、理事の互選により選任する。
3. 役員に欠員を生じたときは、前項の規定を準用して補欠を選任する。

(役員職務)

第 9 条 会長は本会を代表し、会務を総理する。

2. 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
3. 理事は会長、副会長を補佐し、理事会において第 13 条に定める事項を審議する。
4. 監事は本会の会計および事務を監査し、また理事会に出席して意見を述べることができる。ただし、表決には加わらない。

(役員任期)

第 10 条 役員任期は 2 年とする。ただし、再任することを妨げない。

2. 第 8 条第 3 項により補選された役員任期は、前任者の残任期間とする。

(顧問および相談役)

第 11 条 本会に顧問および相談役をおくことができる。顧問および相談役は理事会の議を経て会長が委嘱する。

2. 顧問および相談役は会長の諮問に応じ、また理事会に出席して意見を述べることができる。ただし、表決に加わらない。

第 5 章 総会および理事会

(総 会)

- 第 1 2 条 総会は毎年 1 回開催する。ただし、必要に応じて臨時総会を開催することができる。
2. 総会は会長が召集し、その議長となる。
 3. 総会は次の事項を審議し、出席会員の過半数で決定する。可否同数のときは、議長が決する。
 - (1) 事業報告
 - (2) 収支決算および会計監査報告
 - (3) 事業計画および収支予算
 - (4) 会則の制定および改廃
 - (5) 理事および監事の選出
 - (6) その他、会長が必要と認めた会務運営に関する重要事項

(理 事 会)

- 第 1 3 条 理事会は会長が必要に応じて召集し、その議長となる。
2. 理事会は、理事現在数の過半数をもって成立する。ただし、当該議事につき書面をもってあらかじめ意思を表示したものは、出席者とみなす。
 3. 理事会は次の事項を審議し、出席者の過半数で決定する。可否同数のときは議長が決する。
 - (1) 総会提出議案
 - (2) 総会より委任を受けた事項
 - (3) その他、会長が必要と認めた会務運営に関する重要事項

第 6 章 会 計

(経 費)

- 第 1 4 条 本会の経費は、会費、寄付金およびその他の収入をもって充てる。

(会 費)

- 第 1 5 条 会費は、会員の種別に応じて、次のとおりとする。

- (1) 正会員(第 1 種) 年額 2,000 円
- (2) 正会員(第 2 種) 年額 1 口 30,000 円

(会計年度)

- 第 1 6 条 本会の会計年度は、毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日をもって終る。

第 7 章 運営委員会および分科会

(運営委員会の設置および構成)

- 第17条 本会の会務を処理し事業を推進するため、運営委員会を置く。
2. 運営委員会の委員長(以下「委員長」という)は、理事の中から会長が選任する。
 3. 運営委員会の委員は、会員の中から若干名を委員長が委嘱する。
 4. 委員長および委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(運営委員会の活動)

- 第18条 運営委員会は、必要に応じて委員長が召集する。
2. 運営委員会は、理事会および総会に付議する事項の立案、第4条の事業の実行、その他会長が必要と認めた会務処理に当たるものとする。

(分科会)

- 第19条 運営委員会は、第4条(1)の事業の実行のため、理事会の承認を経て分科会を置くことができる。
2. 分科会の構成および活動等は、分科会規定に基づいて行う。

第 8 章 補 則

(会則の変更)

- 第20条 本会則の変更は、総会の議決による。

(規定の決定)

- 第21条 本会則に基づく規定は、理事会において決定する。

第 9 章 付 則

1. この会則は、昭和58年11月11日から施行する。

付 則

(昭和59年6月15日総会決議)

この変更会則は、昭和59年6月15日から施行する。

付 則

(昭和61年6月20日総会決議)

この変更会則は、昭和61年6月20日から施行する。

九州橋梁・構造工学研究会 分科会規定

(総則)

第1条 この規定は、九州橋梁・構造工学研究会会則第19条に基づき、調査研究活動を行う分科会の基準について定める。

(設置または廃止)

第2条 分科会の設置にあたっては、その目的、事業、存続期間、必要経費、委員構成等について、運営委員会がとりまとめ、理事会において承認をうける。
分科会は、その目的を達成したときに、理事会の承認を経て廃止する。

(構成)

第3条 分科会の委員は、会員およびその目的に沿った学識経験者および関係者とする。
2. 分科会には主査を置く。必要に応じて副主査および幹事等を置くことができる。主査は、複数の分科会の主査を兼ねることはできない。ただし、委員として加わることはできる。

(委嘱)

第4条 主査は、理事会の承認を経て会長が委嘱する。また、委員は原則として、主査の推薦によって、運営委員長が委嘱する。

(任期)

第5条 委員の任期は、その分科会の存続期間とする。

(開催)

第6条 分科会は、主査が招集する。

(成果の報告)

第7条 分科会は、その事業の成果を得たときは、運営委員会がとりまとめ、理事会に報告し、原則として会員に公表するものとする。

(事業計画および予算)

第8条 主査は、毎年3月中に翌年度の事業計画および予算を、運営委員会を通じて理事会に提出しなければならない。

(経費等)

第9条 分科会の運営に必要な経費等は、分科会の予算の範囲内で支出する。

(事業報告)

第10条 主査は、毎年4月上旬までに、前年度の事業経過の概要を運営委員会を通じて理事会に報告しなければならない。

付 則

(施行期日)

(1) この規定は、昭和59年6月15日から施行する。

編集後記

昭和58年11月11日、「産官学の壁を越えて、自由な立場で………」と設立された本会も、今年めでたく創立10周年を迎えました。本会発足前の設立準備会の頃から通算すれば丸12年。長いようで短かったような気がします。おかげで、本会も会員だけでなく、東京・関西地区の構造・材料関係の技術者たちの間で、“KABSE (カブセ)”の呼称もすっかり定着した感があります。

今回、「創立10周年記念特集号」として増刊号を編集しながら、あらためてこの10年間にわたる本会の活動の活発さに驚嘆した次第です。

会報編集小委員会も、初代の出光から烏野、日野、成富、井嶋と5代の主査のもとに、本会設

立の趣旨を重んじ、一貫して会員の皆様に対するメッセンジャーとしての役割を果たすとともに、楽しく読んで頂けるように頑張ってきました。これもひとえに、本会の活動に積極的に参加、協力していただいた会員の皆様、ならびに原稿執筆を快く引き受けて下さいました多くの方々のおかげと心より感謝申し上げます。

時代は昭和から平成に移り、そしてまもなく21世紀に突入します。KABSEも今日から20年目に向けて新たなスタートを切ります。若いエネルギーを得て、益々本会の活性化を図っていきます。会員の皆様には、今後とも益々のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

(会報編集小委員会)

九州橋梁・構造工学研究会会報

平成5年6月18日 発行

編集 会報編集小委員会

日野 伸一

発行事務局

〒810 福岡市中央区天神1-8-1

福岡市土木局道路計画部

藤井利治

電話 (092) 711-4451

印刷所 松隈印刷株式会社

〒810 福岡市中央区港2-11-8

電話 (092) 721-0769

表紙説明

レオナルド・ダ・ヴィンチの ゴールデン・ホーン架橋計画

構想・写真提供 山本 宏氏

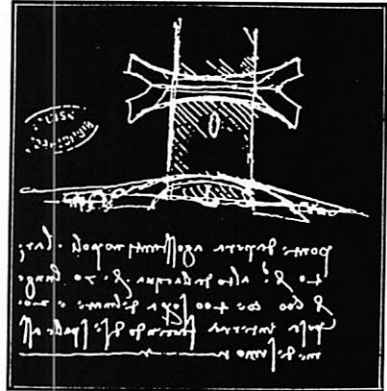
Leonardo da Vinci (1452~1519) は、一般に「モナ・リザ」「最後の晩餐」などを残した芸術家として知られている。しかし、一方では優れた科学者であり技術者でもあった。

彼には夢があった。イスタンブールのゴールデン・ホーンに橋を架けることで、表紙の図は、彼のノートに残されたこの橋の平面図と立体図である。1150フィートに達する橋の寸法は、彼独特の鏡文字で次のように書かれている。

「ベラよりコンスタンチノーブルに至る橋。幅員40ブラッチョ、水面からの高さ70ブラッチョ、長さ600ブラッチョ、うち400ブラッチョは海上、200ブラッチョは陸上にあり、自らは橋台の役を果す」

レオナルドは多くの分野にわたって重大な発明や発見をしたが、それらは彼のノートに埋もれたままだった。彼は、あまりにも時代に先行しすぎたのである。

(九州工業大学教授)



KABSEのシンボルマーク

デザイン 河地 知木氏

上を向く▲に研究会の将来への発展を祈念した。橋梁のプリミティブな型を「山の吊橋」にイメージを求め、▲の山の中にKyusyuのイニシャルKの上部を橋にみたてて組み入れた。

(九州産業大学教授)



KABSE

KYUSHU ASSOCIATION FOR
BRIDGE AND STRUCTURAL
ENGINEERING

九州橋梁・構造工学研究会

なお、本会創立10周年を記念して、同氏のデザインによるネクタイ・ピンを製作し、会員ならびに本会の活動にご尽力いただいた方々に進呈しています。



KABSE

KYUSHU ASSOCIATION FOR
BRIDGE AND STRUCTURAL
ENGINEERING

九州橋梁・構造工学研究会

